

## 議会運営委員会

令和4年9月26日（月曜日）午後1時30分開会

### 出席委員（8名）

委員 長 齊藤 誠之  
委員 山形 紀弘  
委員 森本 彰伸  
委員 小島 耕一

副委員 長 星 宏子  
委員 中里 康寛  
委員 鈴木 伸彦  
委員 大野 恭男

### 欠席委員（なし）

### オブザーバー（2名）

議 長 松田 寛人

副 議 長 相馬 剛

### 説明のための出席者（なし）

### 出席議会事務局職員

事務局 長 増田 健造  
議事課長補佐  
兼庶務係長 印南 恵子  
主 査 飯泉 祐司

議事課 長 相馬 和男  
議事調査係長 長岡 栄治

### 議事日程

1. 開 会
2. 挨 拶
  - ・ 委員長
  - ・ 議長
3. 協議事項
  - (1) 模擬議会について
  - (2) 宇都宮共和大学パートナーシップ協定に基づく協力依頼について
  - (3) 議会運営委員会研修会について
  - (4) 質問のあり方（答弁者の指定）について
  - (5) その他

4. 閉 会

開会 午後1時30分

◎開会の宣告

○齊藤委員長 皆さんこんにちは。

議会散会後の議会運営委員会ということで、何かと予定とあるところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。



◎委員長挨拶

○齊藤委員長 議運のほうで、あと半年で1年間が終わるわけなんですけど、事業がこれからめじろ押しになってきますので、それプラス、この間皆さんに、御審議というか、御報告いたしましたなり手のフォーラムと、あと、1月、年明けてからやろうとしている模擬議会というか、そのスタイルも決めていって、新たな事業、2本ちょっとありますので、その辺の意見を聞きながら、取組実行計画に書かれているものを一つ一つクリアしていきたいと思っておりますので、忌憚のない御意見をよろしく願いしておきます。それでは早速入りたいと思います。



◎議長挨拶

○齊藤委員長 議長、何か話しますか、今日は。

散会后なので、予定にはないんですけど。一言何かあれば。

○松田議長 大変お疲れさまでございました。

9月議会、皆様の議運のメンバーの詳細な決定に基づき、いい議会ができましたことに感謝申し上げます。

最後、散会を解散と言ってしまうまして、大変

申し訳ございませんでした。

何とか、また夏が戻ってきたような感覚で大変、昨日からすごい猛暑です。昨日は、女性防火クラブの試合があるので、副議長は、副議長で、塩原で散々歩かされて、帰ってきたということで、今後、10月になると、国体も始まりまして、体は結構、いろんなイベント等が多くなると思いますので、体調のほう、管理していただけると。

国体に向けて、今日、PCR検査を僕は提出させていただきました。やっぱり開会の時に宣誓するには、やっぱりPCRやらなきゃいけないってことみたいなのでさせていただきました。

これで、出たら、まだ、新聞等々にも出てましたけども、皇族の方が結構な回数で頻繁に来る予定でございます。三笠宮様、あと、佳子様も来らしいですね。乗馬を見に来る。佳様様の情報です。

ということで、皇族のお客様もどんどん入ってくるということなので、結構警備体制もかなり厳重になるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

9月議会、ともあれ、御苦労さまでございました。

以上です。

○齊藤委員長 ありがとうございます。



◎協議事項

○齊藤委員長 それでは、協議事項に入りたいと思います。お手元の資料に沿って、まず、模擬議会ということで、これは俺か。じゃあ、すみません、前回皆さんにある程度お諮りをして、やっつけていって、ちょっとポスターをつくらうということで、副委員長と、斬新なのはどうでしょうということで、

見たこともないような形でポスターをつくってみました。

やる内容なんですけどこの間、お話したとおり、一般質問形式ではなくて、意見表明をする形のほうがいいんじゃないのかっていうことと、聞き手を、こちらの議員全員、議員全員が執行部のほうに座って、意見表明を聞くという形でやったらどうかということで、今回、そのフォーマットで書かせてもらっております。

なので、答弁を必要とするかしないかは、そのいただいた内容を先に皆さんで見ておいて、議員個人の感想というよりは、ある程度、抽象的に返してもいいでしょうし、議員として取り組めるものはしっかりと取り入れて、今後対応していきます、みたいな感じで、スピーチの時間を3分から5分与えたほうがいいんじゃないのかなっていうことを、前回そのような含みでお話をさせていただきました。

そうすることによって、土曜日の開催でありながら、執行部、部長クラスとか市長をお呼びする必要がないということと、議員のほうの単独で開催が可能ということで、いきなり、執行部に来ていただいて答弁をする形のものになってしまうと、まだ、ちょっとやり慣れてないというか、初めての事業だということもありますので、今回は、出ていただく方に、いろいろなテーマに沿って、1問なら1問、3分から5分お話を、質問台でしていただいて、議員のほうで誰かがお答えして、1サイクル終わりみたいな感じでやっていったらどうかと思ってます。

ここに一応、高校生とか女性とか若者って書いてあるんですけど、一応、何歳でもいい、どなたでもとは書いてあるんですけど、インパクト的には、なるべく、そういった年齢層の方々に興味を持っていただけたらということで、その辺を主張

して書いているような感じになってます。

募集定員も、最初26を目指そうと思ったんですけど、もし5分話されて、議員が一、二分で返して、移動まで考えると、1人8分ぐらい取っちゃって、それを26人やるととんでもない時間、200分ぐらいかかっちゃうので。3時間以上かかってしまうので、1時から、これ、4時半って書いてあるんですけど、多分、4時で、本当は想定してたんですけど、1時半から4時ぐらいを、ごめんなさい、これ書き直すの忘れてました。右下のほうが正解ですね。1時半から4時の設定でできればいいかな。人によってはそんなに長く話せないもので、3分で終わったら3分で終わっても構わないっていうことで、取りあえず20名集めてやってみたらどうかと思ってます。

参加者の説明っていうのは、普通に真ん中の演台来たら、議長が指名したら来て、おじぎをしてから意見表明してくださいみたいな感じの意味の説明とかをするのが30分、それ以外は今まで申込方法の後のグーグルフォームとかはまだ作成していないので、その中で、どのテーマについてどういったものをお話しするかっていうのを、こちらに上げていただいた後にやるという形にします。一応、20名以上になった場合には抽選としますって言うんですけど、そこまで来てくれれば嬉しいなとも思ってますので、また皆さんのお力をお借りして、誰か、何か思ってることは発言してみませんかかっていうことで、より、議会の場所でそういったことをやっていくことによって、議会の興味、関心が上がってみたり、議員自体が、そういったもので、本当、本来であればその質問という形で、執行部とやり合い、市民生活であったり、そういった課題解決をしているっていうところも分かっていってもらえるのかなって思っています。

なので、一応皆さんの、また御意見をいただい

て、詰めていきたいと思しますので、御協議いただければと思います。

何か御質問ある方、お願いいたします。

鈴木さん。

○鈴木委員 本題ではないんですけど、これ、土曜日ですよ。執行部来ないのは、全然いいと思うんですけど、事務局はどう、手伝っていただけますか。

○齊藤委員長 何も言わないんですけど、来てくれるっていうんですけど。

○長岡議事係長 議場のほうの準備とかありますので、それは、サポートさせていただきます。

○齊藤委員長 事務局には大変申し訳ないんですけど、来ていただかないと回せないの、後で代休取ってください。という形になっております。

○小島委員 1つじゃあ。

○齊藤委員長 小島委員。

○小島委員 模擬議会で、まず、若い人たち、女性、質問をするのか、それとも、意見発表をするのか、どっちを中心にして考えているのか、これ、見ると、見えてこないんだけど、質問をするなら、やっぱり質問だろうし、意見発表なら、意見発表だと思うんで、そこら辺のスタンスというのは、若い人たちに、しっかりと教えてあげないと、何をやったらいいんだろうかって、質問が来ちゃうんじゃないかなと思ったんですけど。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

その部分も、一応、右下で意見表明ということで、意見ということは書いてあるんですね。

質問にしちゃうと、やりとりが発生しちゃうので、議員が回答をするようになっちゃうんです。

その形を考えたんですけど、最初は。

例えば、道路がこうだから、どうしたらいいですかというのが言われちゃったら、先に執行部に行って回答をもらってこなきゃならないんですね。

代弁するみたくなっちゃうので、そうすると、議員の前にも、前の、前のときに、小島さんが言っていて、この間、ちょっと意見変わっちゃったんでびっくりしたんですけど、その議員の出番がなくなっちゃうんですよ。場所だけ用意して。

なので、いただいた意見を議員がその後はどうしたというふうにつなげたいので、意見表明してもらえたらなと思っています。

質問ではなく。

自分の思っていることを言ってくださいということですね。だから、それが質問というふうにも捉えられるし、意見を言っているとも捉えられるんですけど、だから、那須塩原市はこうこうだから、こういったところにはすごく弱いと思いますというのも、意見表明だし、それをどうしたら、こうなるんですかというけど、そのまま続けて言っていってもらえるような感じね。

なので、そういったものを、うちら、後で拾って行って、ああ、そういう意見があったんだ、あの意見どうしますかというふうにつながればいいのかと、自分の中では思っています。

その場では返さないで、その意見、全部、言われた、例えば、5問、言う、齋藤君というのが言っていたときに、小島さんが、たまたま担当だったら、今の5つの案件に関してはという話で、多少返してくれば良い、そういった課題があるの、初めて知ったとか、そういった意見をうちらが受けて、しっかりと対応していきたいという、そういう答弁でいいんじゃないのかなと思っていて、その場で解決はしないというやり方をしたいと思います。

なので、質問なのか、意見なのかというと、意見を重視で書いてくださいというのが、その返し方としては、ということですね。

議会、模擬議会なので、議会に来て、物事をや

るのを模擬議会というふうに、大きく捉えるという  
ことで、議会、議員さながら、一般質問をやら  
うというところまではちょっと、今回はやめよう  
という話になったので。

○小島委員 若い人が来て、何か、すごく、どうい  
うふうに盛り上げていくか、見えてこないところ  
を感じるんです、私は。

○齊藤委員長 いただいた後に、この後どういうふ  
うに設定するかなんですけど、そのいただいた意  
見で、じゃあ、議員が関わって、もうちょっと、  
こういうふうに言ったらいいんじゃないのかとい  
うこともできますし、高校生との意見交換のとき  
にも、子供たち、あそこでプレゼンしますよね。  
こういうふうにしたと思いましたが、ああい  
った感覚が子供たちができるのであれば、自分た  
ちでおかしいと思ったところだったり、将来こう  
だったらいいなということ、議場でしゃべって  
みないということに、なればいいんじゃないかと、  
これはあくまで若い子たち向けは。

○小島委員 私が思うには、ワークショップの中で、  
こうやるときには、それ、すごく分かるんです。  
ただ、1人で意見を述べるという、例えばだと、  
何か、ちょっと違う、だから、あそこで、意見発  
表会になっちゃうんですよね、そうすると。

よくあるよね、小中学生が意見発表会やります  
よって、自分で経験してきたことがあるから、こ  
ういうことっていうようなそういうスタンスでや  
るのか、それとも、何か議員が入っても、見えて  
こないですよね、今度。意見発表会だったら。

○齊藤委員長 何て言うのかな、うちの会派のほう  
で、この間どこだっけ、犬山か、犬山のほうで、  
市民フリースピーチ制度というものをやっている  
んです。市民フリースピーチ制度って、議会が始  
まったら、1人5分間与えて、隣りの大田原市が  
5分間、やっぱり同じようなことをやっているん

ですね。6名ぐらい、毎回、毎議会で、登壇者が  
いれば、そこで、しゃべらせているという取組  
があるんですよ。

今回はそっちに寄せたような考えになるので、  
意見がある子があそこで意見を言っていくという  
形で捉えていただければと思うんです。

だから、経験上のことを言ってもらっても、何  
でもオッケーなので、1回しゃべる内容は原稿を  
いただきますけど、そこにほら、誹謗中傷とかが  
あっても困っちゃうので。そういったものは全部、  
とにかく、あの場所でしゃべってもらおうという、  
あそこで、という形にして、臨戦態勢整えたよう  
なものをやってしまうと、ちょっと、今の市内だ  
と超有力者とかが参加とかになって来られてしま  
うと、ちょっと大変なので。

いや、議員としては、構わないとしても、執行  
部を呼んでしまうと、議員さながらになってしまう  
ので、ちょっと、よくないかなというところ、  
どちらかという、若い人たちがその場で述べ  
ていくという、あるいは、女性であったら、女性  
が子育てしにくいとか、しやすいとか、どちらも  
含めて、言ってもらってもいいですし、というふ  
うに、いろんなジャンルでいいので、それぞれや  
っていただければいいんじゃないのかなというの  
を、今年駆け出しでやれたらって、あとは、もう  
これじゃ面白くねえよってなっていったら、ほら、  
今後、一般質問とかにしていってもいいと思うん  
ですけど。

でも、一般質問、大変で、足利市のやつも2問  
とか、再質問ほとんどなしでやっているから、で  
きないんですね。

○小島委員 時間がないからね。

○齊藤委員長 そうなんです。

丁寧に執行部も答えてしまうので、何か、さな  
がら否定はできないから、言葉選ぶのも大変なん

でしょうけど、だから一回、議員で預かったほうがいいんじゃないのって、今回は、そこにくっつけたんですけども。

本当は高校生の意見交換で出てきた高校生を呼びたかったんですよ。そのまま自分で質問に変えてやっていこうよっていうふうに、きれいにつくりたかったんですけど、ちょっと、コロナのせいで、ほら、4校の中で、今、まだ1校だよ、最高、2校にしかないんですね。そうすると、公平性に欠けちゃうので、お誘いは皆するんですけど、しゃべってみたいという人たちがこれだけ来るかということも含めて、別に高校生だけじゃないですから、大学にも案内出して行って、それこそ、地域からしている方、どなたでもというふうにしっているの。

○小島委員 いいですか。

○齊藤委員長 どうぞ。

○小島委員 模擬議会という言葉は、想像するにやっぱり、やりとりというところが感じがあるじゃないですか。模擬議会。

○齊藤委員長 それをみんながどう捉えるかなんですけど、議会が何をしているかが分からない形が、議会で何するの。

○小島委員 議場で、何とか、意見発表会しましょうというような雰囲気だよ。

○齊藤委員長 そうそうそう。本当にそんなに簡単にしています。そのとおりでいいです。

○星副委員長 じゃあ、ここの模擬議会始まるというところのここを変えたほうがいいのかという感じ。

○小島委員 そんな感じしますよね。模擬議会と言ったら、やりとりがあるという。

○齊藤委員長 でも、先ほども言いましたけど、足利とかでやっている執行部の答弁も、1回ずつしかないんですよ。

○小島委員 そらそうだろうな。1回でもいいから

さ。

○齊藤委員長 1回は、議員が返すんですから。議員が返すの。

○小島委員 返すの。

○齊藤委員長 市民の意見に対し、議員が返すようにしようとしている。

だから、やりとりはあるんですよ。回答を出さないだけです。

○小島委員 やりとり。回答を出さないのと、やりとりはどういうふうに違うの。

○齊藤委員長 いや、だから、今受け取ったものを、自分たちの感想で返してあげるんですよ。議員が。

○星副委員長 今の意見、とてもいい御意見いただきましたので。

○齊藤委員長 講評まではいかないけど、講評だど失礼だから、そこをうまく返すんです。

○小島委員 返し方はどういう返し方。

○齊藤委員長 それはもう、個人のスキルですけど、小島さんならできますよ。

○小島委員 そういうものでもないけど。

○齊藤委員長 大体、ニュアンス的にはそういったものを受け取って、今後の、議員のほら、テーマとして、取り上げたり、議員として、それをしっかりと取り上げていきたいと思うという話でいいんじゃないのかなと思うんです。

これ以外になっちゃうと、その全ての設営がまた大変になるということと、質問を調整するのに、議員とセッティングさせる時間が必要になってきちゃうので、ちょっと、今のこの皆さんの状態だときついかなどは正直思っているの。

その模擬議会という捉え方ですよ、要はね。言葉がということ。

○森本委員 1つ聞いていいですか。

○齊藤委員長 はい、どうぞ。

○森本委員 これ、チラシを見ると、高校生、若者、

女性というところにターゲットを置かれて、絞っているのかなという気がするんですけども、同時に、誰でも参加できますよというふうになっているんですね。

多分、今回のこの模擬議会の趣旨としては、絞った形で、じゃないかもしれないけど、取りあえず、その女性、学生、高校生とか、その辺を中心にやりたいのかなという部分が見えるんですけど、実際に、募集して、来た場合に、何か、各自治会の自治会長さんたちがみんな申し込んできちゃったみたいな感じに、なる可能性がなくもないのかなというか、どんな形でフィルタリングかけていくのかなというのが、ちょっと、知りたいんですけど。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

一応、正副と、係長と、言って、あと、飯泉くんか、4人で話してたときに、上にこれだけ具体的に書いてある中で、どなただけを拾って申し込んでくるかなという話をして、僕、もうちょっと、その地域のつというふうには、地域って入れるということは言っていたんですけど、逆にこれを見たときには、そこまで入ってこないんじゃないのかなて、思っているところも、いるんです。賭けなんですけど。

さっきから、俺がちょっと、抽象的にはぐらかしているの、具体的に言っちゃったんであれなんですけど、そういった方々が言いたいという形であればいいんですけど、だから、これ、議場だからあれですけど、いっぱいいけば、ほら、抽せんにはするので。

○森本委員 作為的というか。

○齊藤委員長 フィルタリングはできると。

○森本委員 何か、ちょっと、ポップな感じなんで、チラシも、いわゆる、そういうお年寄り さんたち、いわゆる今までいろんな意見発表の場に来

てた人たちというのは、これを見ると、参加したいというふうに思わないかもしれないという部分は、それ自体が、フィルタリングになるかなという気はするんですけど、でも、誰でもいいですよという意味で、誰でもいいんだったらと言ってくる人もいなくもないかなという気がしたもんですから。

○齊藤委員長 一応、その市内在住とかも考えていて、通勤、在勤までしたので、一応若者も書いてありますし、学生どまりじゃないですから、別に、20代、30代で働いている人たちも若者、もちろん、40代でもいいですけど、要は議会に関係ない人たちが、こういった体験をしないと、意味がないんですよ。自治会長クラスはもう議会に関心、ほとんどあるので。

○森本委員 しょっちゅう、うちのところへ来て、意見してくれている自治会長さんとか、いろんな人たちいるじゃないですか。そういう人たちがこれを利用して、こう来ちゃうという可能性をちょっと、どうしようかなと、あと、20人、これが例えば、若者、女性、学生で、20人以上になっていれば、外れましたと思うんですけども、募集した人数が18人でしたと、何で俺外されたんだということが、ちょっと発生しちゃう可能性がちょっとあるかなと思ったんで。

○齊藤委員長 最悪、出してもらっても、僕はいいは思うんですけど、ただ、内容は何を言うんですかと言ったときに、何か反対とか、へったくれとか、そういうものを言うてくるかどうかは、ちょっと、判断基準としては、難しいかなと。

○森本委員 そう、ちょっと、それは。

○齊藤委員長 やっている政策に対して反対とか、そういう意見をちょっと、言われてしまうと、希望も何もないんですよ。

なので、思っていることとか、今現状、不便で

あること、ということですね。

そういったものの、言い方によるかな。

○森本委員 ある程度、内容も、そういうのは、ちょっと今回やめてくださいということは、場合によっては言う。

○齊藤委員長 申込みのときに、これ、もう申込みも、電話と 구글フォームで、すごく絞っているので、電話でかけてこない限りは、多分、あとは、グーグルフォームで申し込むときに、テーマ設定をした後に、そのフォーマットのほうには、しっかり書こうとは思っています。誹謗中傷であったり、今現況で進んでいる政策への反対表明みたいなのはやめてくれと、だから、それがあると心配だとかという話をするんだったら、それはそれでいいと思うんですけど、そういったものはやめてくださいという話ですね。

○森本委員 了解しました。

○齊藤委員長 にしたら、いいかなと思っています。

○鈴木委員 これを見て、あとは、応募者があれば、フィルターかけたり、いろいろと、声明とか、答弁の仕方っていうのは、すごく熱が入ると思うんですけど、一番は、広報広聴でもやっている、来てもらうという感覚、ここも、もう20人というのは、逆にいうと、これをネットに出すのか、チラシで配るのか、募集をかけたときに、簡潔に言うと、ただ単にそれだけだと、人来ないんじゃないかなという自分はそう思っている。

これで、練っているのも、もしかすると、どこの学校に、学校、出前講座やったときに、している方に、何人か、誘えそうだなと、何かぼやっとある、また、教室でこれ、みんな、小学校で、中学校、高校で、この中で、何かの授業の中で、弁論大会やろう、みんな1人ずつ言うんだよというのは、それは、なると思うんですよ。

だけど、これだけ自由にして、来てくださいと

言ったら、自分は絶対手を挙げないと思うんですよ。

だから、この20人というのに、ある程度、これは一応出すけども、今言った、さっき言った練ってる方に、どういう形で、一本釣りじゃないけども、具体的にあそこの高校のあそこに言うと、10人ぐらい来るかなとか、女性は、社会人になると、もっと幅を広げなくちゃいいんだけども、個人的になるかもしれないけど、ちょっと、意見を持っていそうな人を知っていて、一般には来ないけど、声をかけたら、何か、意見を言ってくれそうな人が、足して20人近くいけるのかなというところを持ってないと、なかなか、20人3分間、自分の考えを持ってしゃべるといって、準備するだけでも結構大変だと思うんですよ。本人は。お正月、ゆっくりしした後だからというのものもあるし。

その辺は、成功させるために、きちんと練つてかないとなかなか、20人、しかも、自分は10人でもいいかなと思っているんですけど、弁論大会のみたいな話の延長のものかな、会場が議場だということですね。

○齊藤委員長 そうです。

○鈴木委員 で、学校とか、そういうところだと、そのこういうところ出て、優勝しましたとか、入賞しましたとか、賞状もらったりする、何か、残るものがあるんだけど、議会は、こういうところ出ましたとか、順番つけるものでもないし、ただ、証明したところで学生にとって、高校とか、大学の入試の参考になるかも、選別の中で多少なることもないし、出る人のメリットを考えるとなかなか、人が出ない、やることはこれ、全然賛成なんですけど、手探りでもやってみようと思うんですけど、よその事例を見て、どうやって人集めしているのかなというのは1つ、それと、なくても、今、委員長の考えの中で、やっぱり、20人ぐらい

は、こっちからも引っ張れるぐらいのところがあるの頭の中にあるのかなということの思うんです。

○齊藤委員長 基本的に声かけることは大体、似通ってきますので、フォーラム、今回、やる、来月の22日にやるやつも、誰か声かけするという団体は大体、変わってないと思うんです。同じところに声かけていくしかないの、市民か、団体か、市内の団体かとかってなっちゃって、基本的に、20人いるから20人と書いたわけじゃなくて、先ほど言ったとおり、26人が定数だから、26人が本当は理想なんですけど、時間が回らなくて、ざっと時間を組んだ中で20人決めただけですから、じゃあ、それが全員用意できるのかということは、別に頭の中にはまだありません。

それがあって、自分で全部用意してきてやるというものを組み立てるほど、僕も余裕はないので、これ、そのために、皆さんで声をかけてみてもらえませんかということにしているわけですね、これ。

市民アンケートとかも、全て、皆さんの結局、声をかけられるかということなんです、極端な話、お願いをして、おまえが考えてんだから、おまえが集めてこいよみたいなものになっちゃうと、この先、誰も企画なんか考えませんから。

人集めが大変だから、誰にでもチャンスをあげられるぐらい、もともと、26人の議員が考えがあって、議場に来てしゃべってみよという、こういう人たちがいなければ、閉鎖的な議会がずっと続きますよねという話になっちゃう。

だから、僕だけが呼ぶだけじゃなくて、僕はもちろん、声かけますけど、何か、元気そうな子だったり、あるいは、ちょっと、自分より年下であり、元気な若い人とか、上の人でもいいんですけど、上の人意見聞くというのは、もう、散々、

別に聞かされているでしょうから、なるべく未来につながるような形になっていけばいいなというはしりなので、その質問という形はやめたんですよ。

まず、議会のほうに、来てもらってやりましょうというだけが、最初なので、3分間、考えるの大変だっていうのはそうなんですけど、どこの議会もその質問つくるほうがよっぽど大変だと僕は思っているの、3分しゃべるよという縛りをどういうふうにみんなが捉えるかということですから、僕、1分しかなければ1分でも、時間調整はできますから、大丈夫だと思うけど、もし、その内容が1分しかなかったら、多少、議員からお助けを入れて、どういうことを話したいのということを入れるとは思いますが。

なんで、なるべく3分以上はもっていかないとはいっているんですけど。

○鈴木委員 内容とか、どういうところから人を引き出すかなという。

○齊藤委員長 だから、団体です。

○鈴木委員 そうそう、なので、今の話は、聞けば当然なんだけど、できれば、議員1人が、1人ずつ。

○齊藤委員長 そうなんです。

○鈴木委員 しゃべりたい人連れてこいと言われてれば、それも1つだと思いますけど。

そこをもうちょっと煮詰めたほうがいいのかも思ったんですけど。

○齊藤委員長 でも、言ったからって、じゃあ、みんな1人ずつ連れてきて、名前とあれ出してって言う、それじゃ、みんなやりたくないじゃないですか。

○鈴木委員 それが1つとして、今、聞きながら思ったんですけど、例えば、農業団体の人声かけてって、そこからは、農業団体にこれいいそう、

自分の世代だともう、年、60近くなっちゃうんだけど、そこで、40前後で、誰かといっていったら、団体とかそういう世代の人の話とか、普通の地域の人の40代の女性の話その辺の引っ張り出し方を、詰めたら、そういうちゃんとした人が集まってこられるんじゃないかなと思った。

○齊藤委員長 それは、みんなそう思っていると思います。

だから、集めてきてやるときに、どういうふうにするかと言ったときに、森本さん、さっき言ったけど、ポップな感じにしたというのは、こういう文書で、出てみませんか送ったら余計に来ないでしょという話になって。

○鈴木委員 これは、何もなくて言ったら分からないから。

○齊藤委員長 これを持って行って、こういうのがあんだけどいう話で。

○鈴木委員 そうそうそう。

○齊藤委員長 何するのと言ったら、こちらがやっている議会あるでしょう。あの議場で、自分の思っていることをしゃべってみないというだけなんですよ。

○鈴木委員 この紙があるのは、その通り。

○齊藤委員長 なので、かえってお年寄り、失礼、御年配の方に、これを見せるものが、僕は大変だと思います。何これと言われちゃうんで。通じないんで、多分。若い子にも、通じないかもしれないですけど。

だから、こういう意味で模擬議会ということで、集めているから、興味あればしゃべってみないかという話で。何のことでもいいよということが言えば、議会行ったら緊張しちゃうんだけどと言っているけど、でも、やあ、いい経験になるよと言うしかないですよ、極端な話。

もうとにかく20名って結構ハードル高いので。

○鈴木委員 ちなみに、ちょっとずれるけど、これ、グレーじゃなくて、もっとピンクとか、白とかって明るいほうがいいんじゃないの。

これ、ちょっと、イメージがちょっと暗いなど。

○齊藤委員長 どちらかというと、チラシで、人が集まるぐらいだったら、それこそ、いいんですけど、インパクトと、やろうとしているこの柔らかいイメージでしゃべってみないというところをやるというのと、実はその課題の中で、議会報告会とかでも、そうですけど、自治会に行きますから、しゃべってくださいというのと、自治会の人たちは、何となく、仕方ないなで来てくれるんですけど、いかに、これで、若者とか、女性を引っ張り出すかというところが、山なんです、自分らからすると。

その人たちが将来、そう言ったことによって、何かが変わることだけでも、相当変わっていくと思うので、今まで来てくれそうな方々は来るのはもちろん、ウエルカムなんですけど、その新しい人たちがどれだけ引っ張り出せるかというところをチャレンジしていこうと、高校とか、中学とか、今、もう、散々主権者的な教育は、議員として行っているわけですよ。それこそ卒業式で、横で座っている議員より、皆さん、ちゃんとしているんで、よっぽど議員というのは、みんな分かるぐらいになってきているさなか、じゃあ、この議会のお仕事体験ではないですけど、議場でこういうことをやっているということ、しっかりと、やっていくことでも、皆さんにとっても、興味関心は湧くんじゃないのかなとは思っています。

あとは、その先ですよ、極端な話。そういった、そこで、マイクを通して言っていくことで、自分たちの思いがその議員が、今回執行部じゃないですけど、議員側から伝えて、さらにやってく

れているというところにも、つくんじゃないのかなとは思っているんですけど。

なので、ターゲット的には、この上に書いてあるような人たちに、まず出して行って、どれだけ捕まえてくれるかというところは、僕の中では、思惑的には正直思っているんですよ。

何歳ぐらいで言われると、あれですけど、今度のなり手の、その議員フォーラムも、基本的には、今、議会としては、30代から下は誰もいないので、そういったところに、ターゲットと、女性も3人しかまだいないということで、なるべくそういった話を聞いてもらいたい人たちに、聞いてもらおうと、それ以外の人たちが聞きにきて、ふーんで終わっちゃうので、新しい人の掘り起こしと、現状的に、普通にスピーチをしたい人たちをお呼びしてできればいいなとは思っています。

人集めは本当に、僕も悩みの種なんで、どこに自信あるんだって言われたら、自信はないです。

ただ、集めなきゃいけないんで、頑張るところなんで。

○星副委員長 あとは、あれだよな。

あの出前講座もあるんで、そのときに、声をかけてもらったり、あとは、議会の報告会なんかもありますので、そのときに、模擬議会もありますというちょっと周知をしていただくといいのかなと思っているんですけども。

○鈴木委員 かなりハードルが高いかなと思います。

○齊藤委員長 どういうやり方にしても、人は集めるのは大変だと思います。このチラシではないにしても、来ないし、このチラシでも来ないしというの。だから、結局は誘いにいくツールが何もないので、何か、応募要領持って行ってどうですかと言っても、多分あれなんで、インパクト的に、これで、これ、やるんだってという話だけで、あとは、説明が足りなければ、何かつければいいで

しょうけども、何を訴えたいかは分からないけどということです。

あとは、申込方法の、結局、QRコードを読んで見てもらって、その中で、詳しい説明でもいいのかなとは思ったんで。

○鈴木委員 QRコード、のぞくこと自体がなかなかないわ。

○齊藤委員長 いや、だから、若い子なんですって。若い子対象にしているんです。

そこで、一応、線引きをしている。

電話かけて来る人はなかなかいないと思うんで。

○鈴木委員 QRコード知っていても、見に来るかなと思って。

○齊藤委員長 あとは、iPhoneの人は入れないとかね、色々あると思うんですけど。

○齊藤委員長 グーグルフォームのなんかは入れないというのもあると言ったかな。

○鈴木委員 いずれにしても、声かけないとね。

○齊藤委員長 声かけは絶対するんです。声かけないで、来ることなんてないですよ。

○鈴木委員 それをまず、そこからだと思うね。

○齊藤委員長 はい。

○鈴木委員 そのやり方をやっていかないと、内容がよくても、とりあえず人来ないと。

○齊藤委員長 そこを何とか考えて御協力いただければと思うんですけど。

○鈴木委員 そういうこと。

○齊藤委員長 その意見は僕、言われなくても分かっているんで。

なので、いいんですよ。呼べる人がいなければ、全然呼ばなくてもいいんですけど。ただ、声をかけないのと、声をかけたけど呼べなかったのでは、この協力の度合いが違うということですから、この物事自体が必要なのかどうかは多分、将来に関わってくると思うので、今年はできなくても、来

年度以降続けたら、だんだんだんだん、こう人が  
流的に分かってくるかもしれないですって、  
一応、正副でも、中学生も、さっき、星副委員長  
言ったんですけど、出前講座やっているから、中  
学生も呼ぶ気になれば、入れられるんですけど、  
一応高校生に、まだ、しています。

質問とかを入れたような形にしていきければ、  
その次年度以降、やれば、それで体制を整えて  
いけばいいだけなんで、まず、一番最初、前々回  
のやりたくて、行ってきなかったの、形格好を、  
ちょっと整ってないんですけど、1回、口火切れ  
ば、こういうふうにやればよかったねという反省  
点も見えてくるので、取りあえず、ひよっとした  
ら、3人ぐらいしかいないとかって しまうか  
もしれませんが、それはそれでいいんじゃない  
のかなとは思っています。

なり手のほうも、星副委員長が場所がこういう  
場所じゃなくて、みるるにしようといったからみ  
るいいねという感じで始まって、あそこ、森林  
の牧場あるよねって行ってコーヒーつけて、事務  
局の協力を得ながら、何とか、参加申込みもなく、  
ふらっと聞いて、しっかり、来て、お茶飲んで帰  
ってもらえればいいやというふうに、本当に、何  
ていうか、軽くして、そういったイベントをやっ  
ているというふうに、議会側もやり方、変えてい  
く時代なのかなと思っているので、ちょっと、こ  
れ、議場まで呼ぶのにハードルが高いですけど、  
ただ、志というか、そういうこともやりたい人た  
ちは多分いますよ、どこにでも。

大学にしても、高校にしても、若者の熱い子も  
いるでしょうし、社会人としても、何か、取りあ  
えず、何か言いに来たらと言えば、いいのかもし  
れないですし。

なので、ここはもう皆さん、呼んで声かけても  
らうしかないです。

呼べる、結局、来なかったとしても、声がけは  
してもらいたいと。やり方的には先ほど言ったと  
おり、意見表明でいいんじゃないのかなて、その  
質問の回答を返すのが、執行部入るようになっ  
ちゃうので。

とにかく人数が心配ということが、一番ですね。

○鈴木委員 人数、1人でも、2人でも、来れば、  
もう成功だと思うぐらいやっていいと思うんです  
けど、取りあえず、何か、ちょっと、スタンス違  
うんだけど、自分だと、絶対応募しない。

学生だったら、なおさらしない。

○齊藤委員長 その何をもって、するか、しないか  
ですから、しない人がほとんどだと思う中で、す  
る人を見つけるんですよ。逆ですから。

○鈴木委員 そこをどういう戦略がもしあればと思  
って聞いている。

○齊藤委員長 逆に、俺からすると、どうすればを  
言ってもらいたいです。

どういうチラシで、どういうことを言えば来る  
んだかを知っているから、来ないと言えるんです  
よね。

それとも、僕が気に入ったチラシを出したらこ  
れが来るよと言えるものがあるんですかというこ  
とを聞きたいですけど。

○鈴木委員 どんなチラシをつくらうが、どんなや  
つだらうが、自分だったら、学生だった頃に、こ  
れがあるからって、誘われても行かない。

○齊藤委員長 言った時点で、もうこの企画は終わ  
っちゃいますよ。

○鈴木委員 だけど、でも、いるとは思うけどね。  
いるとは思う。

齊藤委員長 多分ほかで聞いている委員さんは多分  
その言い方だと、くじけちゃいますよ。

そう、これを、止めるんだったら、止めるなり  
の事実を言ってください。

○齊藤委員長 人が来ないという話し合いじゃないですから。これで来ないといっているんですから、じゃあ、何を足せば来るんですかとか、教えてくださいと言っているんですよ。

○鈴木委員 だから、想像する、今までやってきた、今度のフォーラムとか、そういうところで、声かけられるという、ある程度自分の中に、できそうだなという思いがあって、こう段階を踏んでいて、ここにたどり着けるのかなという印象ですね。そういう辺りが、ちゃんと、勝算があって、自分、別に自分が言い出したことじゃないけど、悪いけど、でも、やることはいいことだと思っているんで、じゃあ、いいんじゃないかなと思ってきたんだけど、そこは、一番人がいないと、空回りになると嫌かなと思って、ちょっと、気になったところ。

○齊藤委員長 別に、その考えでいけば、僕ら、これ、やって皆さん、声かけてくれたけど、0人には、僕だけが恥かくから、俺には関係ない。

○鈴木委員 恥とかそんなん関係ない。  
関係ないんだけど。

○齊藤委員長 そう、だから、まず、20人を集めるためにどうするかを議論していただければいいのに、これじゃ来ないという議論を言っちゃったら。

○鈴木委員 それは、誰の責任とかじゃないんだけど。

○齊藤委員長 大丈夫です。とにかく、駄目でもやってみますから。来なくても、最初は仕方ないけど、やってみようという話なんです。

○相馬委員 それでいいです。

○齊藤委員長 これ、10年ぐらいたっていると、今、言った議論になっちゃいますよ。もう来ないよ、誰も。

なので、ただのやりとりで執行部が、懇切丁寧

に、何か物事をやるという達成感で、1回終わるのか、議員が、1回、ワンクッションだけど、抱えて、議員としては取り組んでいるよというふうにして、議員のイメージの向上も挙げながら、その自分たちのものをやっていくかというのは、相当違うんじゃないかというのが、あったんです。

真岡のほうは、それだけ、執行部が設営した模擬議会、やっても、誰も市の職員になってなくて、誰も議員になっていない。何年だってやっている。十何回やっているから、いてもおかしくないんですよ。

○鈴木委員 その時間の経過の結論の話ね。

○齊藤委員長 そうそうそうそう。だから。

そういうものを見越してやっているわけですから。

ただ、これ、俺、やりたくてやっているわけじゃないですから。将来の話なんで、そういったところに、どんどんどんどん新しい血が入ってくるように、するための手法なので。

だから、気長にやるしかないかなと。

今言ったとおり、中学生とか、入れていけば、人は、ほら、パイが広がるじゃないですか。選択肢が。小学校は中里委員長のほうで、やってくれているわけですから。

だから、そうすれば、広がるけど、このあえて、つらいところを挑んでくるということで、何人来るかなというところは、みんなで声かけてやっていけば、いいんじゃないのかなと思っています。

○鈴木委員 集めるところと、趣旨、人の集め方が何か、企画は考えていかないといけない。

○齊藤委員長 頑張るしかないですね。

○齊藤委員長 団体にちょっとやってみないかっていうことを言い続けてみるしかないですね。

○齊藤委員長 何やるのという質問を那須塩原市議会がちっちゃいので。何のチラシだか本当に分か

らないですよ、自分からしてみれば。

○鈴木委員 チラシは冗談半分なんですけど。

人を集めるのとにかく。

○齊藤委員長 どれもこれも、実は大変だと思いますよ。実は。

○星副委員長 模擬議会そのものも大事だけど、実は、申し込んでくれた方と打合わせする段階でも、いろんな話したりとか、そういうことも大事だとは思っているので、そこで、議会とはそういうことなんだというのが、理解してもらいたい。

○鈴木委員 サポートしてもらわないと、しゃべれない人もいるよね、自分らは別として。

○星副委員長 それは、議会を身近に感じてもらえる1つのツールにはなると思うのでそれはそれでいいと思う。

○鈴木委員 学校の先生も弁論大会の指導しながらしゃべらせる。

○齊藤委員長 取りあえず、ここに、情報過多になってしまうので、分からなくても大丈夫、議員がサポートしますとか、へったくらい、書いても仕方ないので。

○鈴木委員 いやいや。

○齊藤委員長 とにかく、出るか、出ないかの申込方法が、のぞいてくれば、詳細は書いてあるというふうにしているので、そこに、そこはまだちょっと煮詰めてないんですけど、こういった形が入っていきながら、また、ちょっと、話し合っ、層を厚くしていきたいな。

21日に、黒磯南高校でちょうど、高校生の意見交換をやる予定なので。

○齊藤委員長 来年の1月までなので、締切り、声かけに11月30日にはしているんですけど、その中で、足りなくても、12月中にはまだ声かけられると思うんで、案外意見言えるなら言ってみようかなというのもあると思うんです。

向こうから何も返されないから大丈夫という、多分、安心感はとれると思うんですよ。

かえって、議会の質問みたくなるんでしょうとなっちゃうと、言うだけで終わるみたいなのは、ないですから。

なので、どの形がいいか、悪いかは、皆さんの思い次第なので、今回はこの意見表明形式でやろうということで、こっちの正副のほうでは、話が決まったのでやっています。

これをも、一般質問形式ですると、もっともっと負担がかかってしまうので。

○鈴木委員 大丈夫ですよ。議員だって金子さんみたいな人いますから。言うだけ言っていって。

○齊藤委員長

そういうことなので、まず来てもらうということと、そういったことも体験していただくということも含めて、あと、ついでに、自分の意見言えたらいいんじゃないという、議員はもうさっき言ったとおり、困るのであればサポートに入ってみるやり方と、あと、しっかりと、応答してあげるという形でいいんじゃないのかなと、ちゃんと議長にも、名前呼んでいただきますし、模擬議会さながらではあると思います。

だから、執行部置かないと議会にならないというふうに考えてしまうと、ちょっとずれた考えになってしまうんですけど。

那須塩原の市議会議場で行うのはたしかなので。

○鈴木委員 議場でやればいい。

○齊藤委員長 模擬ですから。どこまでも模擬でいいんじゃないかと。という意味だったんですけど、そこまで説明しないと分からないんですけど、つくった自分でもそんなに分からないチラシなので、こういったインパクトあっていいんじゃないという話、模擬議会って何って言ったら、議会に、ある種、議会に来て、自分の考えていることとか、

思っていることを言ってもらえるというやつなんだという話でいいと思うんですけど。

○鈴木委員 真ん中に書いてある議場で思いを伝える、これだね。

○齊藤委員長 そう、これが残っているという。物申すは、これ、星宏子のアイデアで。だから、みるひいくっつけてるんですけど。全然人間らしくないというあれなんですけど。とにかく、遊びのチラシとして堅苦しいのは大変なので、取りあえず、1回やってみましょうという話なんですけど。

伸彦さんが、言ってくれた心配ごとは、僕も、全然それは同じことを思っていますから。

不安でいっぱいです。

誰か芸能人でも呼べるんだったら来ますけど、お金もないですし。

そのぐらい、関心が薄い議会であると。

○小島委員 一般的な話として、こういうものに、乗るといふ人はかなり変わった人じゃなくちゃ来ないよ。

○中里委員 犬山市の事例だけ、ちょっと視察行ってきたので、ちょっとお話をせよと、スピーチする場なので、本当に、ただ単に5分間の与えられた時間に市民がスピーチするんです。

そのときの、それを始めたときの議長はアンソニービアンキさん。

その方が、いわゆる、そういうことをやりたいという事で始めた事業なんだそうなんです。

市議会全体としてじゃあ、そういうことをやったかという、そうではなくて、じゃあ、スピーチに来てた方々って誰なのってところなんですけど、ビアンキさんの後援会の人たちが来ていたのが実情で、実際に、一般市民には広まらなくて、お話を対応して下さった議会運営委員長さんもあんまり、いい印象を持ってなかった感じで

す。

何か僕らは視察行ってそういう話ではありましたが。

○齊藤委員長

とにかく、考えていることを、代弁する仕事なので、こちらは、別にいいでしょうけど、もともと事業としてやっていくことは必要だと思う。

○委員 1つ言わせてもらえば、きちんと、教育部に頼んで、各学校から、代表者に出して。

○齊藤委員長 そうそうそう。それが、真岡の話です。俺が言っているのは。

○小島委員 そうそうそうそう。そのほうが、間違いなく、イベントにはなる。

○森本委員 中学生議会。

○齊藤委員長 だから、それは絞ればいいですけど、基本的には、中学生にやったら、なるまでに、何十年かかるわけ。

○小島委員 いやいや、それが効果を生むとか、そういう話ではなく。

○齊藤委員長 効果が生まないと意味がないんです、これ。

○小島委員 いやいや、それは教育の一環でやるから、そういう経験をしたということが、そうした部分の教育の体験に値するんですよ。

○齊藤委員長 それは別の話なんで、それを言われちゃっても困るので、それは幾らでも考えようがつくんです。

ただ、見てきた中で、中学生だけをお呼びしても、結局さっき言ったとおり、先生がやらないと決めてくるだけなので、同じなんですよ。

誰も来ないのと同じなんです。誰も応募しないから、これ、うまくいかない、先生に言われて、じゃあ、行きますじゃダメなんです、それなんです。

○小島委員 それは仕方ない。

○齊藤委員長 僕はそこが分からないわけではないので。

○小島委員 いや、これはやっぱり、なかなか、大変だと思う。

○齊藤委員長 だから、これから、必ず1人呼んできてくださいよ。

○小島委員 いないよ、そんな。

こういうやつにと言われたときに、誰が来るんだろうさ。

○鈴木委員 後援会に1人1人は無理だよ。

○齊藤委員長 やっぱり、本来はそうしなかったんですけど、さっきも言ったとおり、大変なんですよ、高校だけ考えた後、皆さんこうしてくださいというまでのイメージがあったとしても、どう仕事を割り振っていくかという作業が大変なので、質問をもらって、執行部に届けて、質問調整する前に、1回議員が携わるわけですから、こういう質問を出して、答弁書をもらってという話になるので、ちょっと、そこまではやれる、やる気になればできますけど、ちょっとやりたくないの。

基本的には意見交換として、意見表明として、今まで行ってるものを、来てもらおうという話ですよ。

○小島委員 私の言ったのと違うから、違うんだけど。

○齊藤委員長 一番最初、でも、小島さんは、一般質問やだと言ってたんですよ。

○小島委員 いやいや、一般質問の方がいいって言ったんだよ。

○齊藤委員長 いやいや、逆です。執行部が答えちゃったら、我々議員の出番ないって言ってたから。

○小島委員 そんなことない。

○齊藤委員長 いや、みんな聞いてますよ。

○小島委員 そんなことはないよ。俺は執行部が答えるほうがいいと思っているから。

○齊藤委員長 俺、それ、最初言ったんですよ。そしたら、駄目だって言ったんですよ。

○小島委員 いや、言ってない、言ってない。

○齊藤委員長 多分、議事録見れば載ってますよ。

○小島委員 言ってないよ。

○齊藤委員長 言った、言わないじゃなくて、記録に載っていると思うんです。

○小島委員 そんなこと言ってないと思う。

○齊藤委員長 執行部が答えてしまうと、結局そこで終わってしまうからと、議員はあと何するんですかという話になってたんです。

○小島委員 それはそんなこと言ってない。

執行部も大体その質問した人が納得すれば、それで、一番だと思う。

○齊藤委員長 もうもう、何も言えません。

○小島委員 今回はこれで。

○齊藤委員長 見切りのほら、伸彦さんはいろいろアドバイス聞きながらも、やってはいいとは言ってくれてるんですけど、小島さんの的にはやらないほうがいいという意見でした。

○小島委員 いやいや、そんなこと言ってない。

○齊藤委員長 やるのは構わないということですね。

○小島委員 やるのは構わないですけど。

○齊藤委員長 迷惑がっているのにやっちゃったら嫌だから。

○小島委員 人を集めるのが厳しいという話です。

○齊藤委員長 だから、アドバイスとしては、幾らでも受けます。

もう先に、いや、これ、集める自信ないですというのは楽ですけど、やらないと言っているようなもんですよ。

ということで、本当だったら、いろんなところでこういったものをやっていければいいんですけど、設営上、議員がしっかり答えるというところをやっているだけでも、相当俺はすごいと思っている

ので、人頼みじゃないので。ましてや、答弁、用意しろというわけじゃないんですから、聞いた中で拾えるものは拾っていけるという話なので、すごく緊張感があっていいんじゃないかなと、自分は思っています。

なので、副委員長とかも話して、執行部じゃない、事務局のほうだって、負担は事務だけでちょっと、かわいそうですけど、そこは勝手にやってくれるということですから、執行部だったらというところから、最初始まってたんで、もっとどきどきしていいわけですから、土曜日やるんですよという話したりとか、していたので、平日になっちゃうと、皆さん働いているので、参加はさらに落ちるという形になってしまいますし、真岡さんのやつは、やっぱり、小中学生を入れ替えてやっていて、日曜日だもんね。

平日じゃなくて、休日にやってる。そこにはやっぱり、執行部も呼んでいるというやり方、あれも、執行部がやる模擬的な議会ですから。

議会でというのは、なかなか、やっているところは、分かるということ。

○鈴木委員 ちょっと、これ、合わせた建設的な意見ではないかと思いますが、余談なことなんですけど、今まで、高校や中学で出前講座やったり、議会報告会で行って、自治会の皆様が、このテーブルの中で、会議なんかして、発言する人いるわけですよ。

それを例えば年度の初めにそうやってやっていて、発言する人に最後の集大成として、同じ意見でもいいけど、ここで、今ちょっとテーブルで話してることを言ってみないっていうふうにやっていくと、そこに発言した人もいるわけだから、こういうこの地域で、うちは何も、道路も整備されないとか、電柱が、街灯が立ってないのでどうしたらいいんだみたいなことを言ってる人の、そ

ういうことを、ささやかなそういうことを、議場で発言してもらいたいな、この集大成で人を確保してけば、最後にこの場になるよっていうふうにしていくと、顔が見えるんですけど、今ここで、ぱっと思った時に、やってきたのかなってというのは難しいので、今言おうとしたのは、今年は難しい、これでやって、駄目でも、来年は、そういう気持ちで、報告会やって、出前やりながら、こう話した人を、最後にずっと引っ張ってって、議場で話してみないかというステージを最後にこの時期に残していくという、1年間でいくと、もうちょっと違うんじゃないかっていうだけの話ですから。

以上。

○齊藤委員長 いや、高校生の話だからしたじゃないですか。考え方一緒です。

○鈴木委員 いるんじゃないのって。

○齊藤委員長 そう5月でやってもいいんですけど、電柱1本のために、議場に來られても困っちゃいますけど。

○鈴木委員 いや、でも、市民はそういう感覚で見ている。

○齊藤委員長 それを1月まで待っていて。

○鈴木委員 塀を建てて。

○齊藤委員長 だから、その電柱がもう何十本もあってどうだっていう意見のほうが多分いいと思うんです。

両方を言うっていうイメージではないので、それとまた違うところが出てくる。それはあれですよ、今のその意見だけに対してだけで、それが悪いてわけじゃなくて、何で。

そのつなげ方としてのアドバイスはいいですけど、先ほども言ったとおり、高校生との意見交換の意見発表からつなげようと思ったんですって言うわけなんで、何かがないとなつながらないの

は分かっているわけです。

○鈴木委員 だとすると、今年、そういうさっき言ったのは、そういうところに当てがあって、これを集大成としてあるのかなっていうのを、どうやって人集めるかって聞いたわけで。

そんなこと言われても皆さんもやるんですよ、そのとおりだ、それでいいですよ。

だけど、今年は今年でやっていって、だから、ちょっとずれるけど、来年はそういうところをしっかりと考えながら、いろんなそういう、出前講座でも何でも、年間の計画を立てた中で、一人一人を確実にしてって、こうやって工夫でいくと、もったこう、1年、2年、3年でちょっと充実するんじゃないかなって。

今年に関してはなかなか難しい。でもやろうよねっていう、自分はその程度のスタンスだけ。

○齊藤委員長 全然大丈夫です。頑張りますから。

集めればいいでしょうから、来年の時は僕じゃないですから、別に。

○鈴木委員 そういうのは違うんじゃない。

やっぱり、来年、つなげるんだけど、そういうのを残してって、単年度でこれ難しい。

○齊藤委員長 だから、難しいのは分かっている、理由、分かるじゃないですか。コロナだったんですよ。

○鈴木委員 まあまあね、それは。

○齊藤委員長 やってないわけじゃないんですよ。

これ、後ろつくっておかないと、来年、僕がこれ、出してきたらいいけど、僕じゃない人が出す可能性がありますからという話なんで。

○鈴木委員 そうそうそう。

○齊藤委員長 やってくださって言ったって、みんな大変なんですよ、やるの。

何で、先に後ろをつくっておくから、あとドッキングすればいいんじゃないですか。

伸彦さん言っているのはその後です。これ、まだやってないんですから。やる前から集められないものを言うんだったら、ここでやめてくださって言ってもらったほうが僕は楽ですよ。

それだけの責任の言葉が用意できればですけど。こっちは呼ぶためにやってくれる人たちに何とかお願いって頭下げて呼んでもらうわけですから、じゃあやっぱりその部分はしっかりみんなで考えていこうと、一応、議運でオッケーしてもらっているわけですから、これはかけてみれば、来ないかもしれないけど、って言ってもらえたほうがちょっとやる気にはなりますよね。残念ながら。来ないよ、これ、来ないよって言われてたら、言われてる身になるとちょっときついですけどね。

1回、委員会の進行、代わってもらいたいですけど。

ここ座ってもらいたいですけど。

みんなもその設置で言ったら、幾らでも言えちゃいますよね。こんなじゃ来ないよみたいな話になったら、元も子もないので、そもそも、その主導的に、あと、何をすれば、人が来るかどうかということも、言ってもらえれば、やるしかないですし、これを変えればと言っても、もう今から、議会報告会できるわけでもないですし、やることはやるから、11月に、そういったところでも、案内はできるかもしれないですし。

○鈴木委員 僕はいっぱいしゃべっているけど、要は、各日に集まるという自信はないということをもみんなで共有して、そこから、積み上げていこうかという話を今、しているつもりなんです。

○相馬副議長 まず、これ取組実行計画の10番っていう、ナンバー10に入ってまして、昨年の議会運営委員会の取組実行計画で、一旦決めて議決をしているっていう内容だと思うんです。

議会運営委員会で全議員にこれをお願いしてい

くということになるんでしょうが、議会運営委員会で自信がないと、やんなくてもいいんだと、そういう意見が出ている中で、全議員にどうやって人を集めてくれるという話をするのかってことになるので、きちんと、議会運営委員会が責任を持って議決をした内容について実行してもらえるように進めていただければ、と思いますが、いかがでしょうか。

○齊藤委員長 ありがとうございます。なぜか叱られてしまいましたけど、自信がないか、あるかっていうことで、自信がないって言い方しますけど、自信がないって言い方を前面に出して、用意しません、こちらは。

ただ、そのやりとりをやっぱり言われた時に、どこの部分を出してきてるんですかって話になってるので、伸彦さんが、鈴木委員が、自分たちがこれをやっていく上で、どの部分がじゃあできたらいいんだっていう、その基準もないわけじゃないですか。20人集まったらよかったってことになるのか、先ほども言ってたけど3人でもやれたことがいいのかってことになったときに、副議長が言ってくれたとおり、取組実行計画に書いてあるものを形に表しただけなので、その部分ですね。

なので、来るか来ないかの議論だったら、こういうふうにしたほうが来ると思うんだけどいう話とか、そういう話に変えてもらった方がいいっていうことで、先ほどから何回も言ってんですけど、来ないから、副議長にも、全議員に知らせて、自信ないのでという言葉、僕一つも言ってませんが、この状態で人が来るか来ないかの論点をする場所では、俺はないとは思ってるので。

○鈴木委員 ちょっとかみ合わないんだけど、俺が、自分が思って、言っていることと。

○齊藤委員長 どっちがかみ合わないんですか。

○鈴木委員 あっちが思っていることをそっちに伝え

るのが、かみ合っていないと言っていますけど。

きちんと思いを受け取ってもらってないってことなんだけど、別に責めてるわけでもないし、あとこれをやろうと目指すことは、いいことだなと思って、みんながやるっていうなら、じゃあ協力しましょうっていうようなスタンスで、否定はしても、こういうスタンス、悪いけど。

やるなら、やっぱり成功させたいので、そこで何かこう、同じことになっちゃうけど、今までやってきた中で、コロナじゃなかったらこんな形で、人が来ないっていう計画の中で、これは可能性がいけると思ってやってきたのかなっていうのはある中で、いや、自分だって、本当言うと自信がないとは言えないけど、分かんないですよっていうことは、本心はそこにあるんだな、ではどうやって人集めようかな、というところで、別に20人って書いてあっても、自分はもう二、三人でも、自分の感覚ですと、二、三人でも来て、5人来て、ほんとにちゃんといい意見を、なるほどなど言う意見を言える人が3人もいれば、それは成功なんじゃないのぐらいに思う、自分の。これができたら。

だけども、取りあえず、なかなか自分を想像すると、これいかないなっていう中で、やっぱり、成功させるためには人が来てほしい。だから、どうやって、みんなで人集めるかっていうところの、何ていうのかな、みんなでやろうぜみたいな、クラブチームでないけど、部活じゃないけども、そういう意識が、高まらないと、広報広聴でやるように、関係者だけぼんと来て、なかなか進まないような。

○星副委員長 いいですか。鈴木さんが言いたかったのは、要は、1年かけて、この模擬議会をやるのには、準備をして、その集大成として模擬議会というのが、理想としてはいいんじゃないかとい

うことをさっきおっしゃっていたじゃないですか。

それで、ということは、まだ、これから、議会報告会、あるわけですよ。

だから、そのときに、皆さんとお会いして、お話を聞く機会、今回はちょっと、あれを変えて、団体さんのところに行って、議会報告会をしましょうっていうふうに変えたわけです。

だから、そこで、もしあれだったら、建設的な意見が出るのであれば、それをじゃ今度1月21日の模擬議会がありますので、こちらのほうでぜひ発表していただけませんかってアナウンスはできると思うんですよ。

○鈴木委員 それでいい。

○星副委員長 そのアナウンスをして、また、高校、南高校だって、出前講座があるし、で、あとは10月22日には、若者とその女性のフォーラムもあるので、その時に、模擬議会があるので、ぜひ皆さんの御参加をお待ちしておりますっていうアナウンスはする機会がまだまだあるんですよ。

そこを有効にちょっと使っていただいて、うまく、こちらに、模擬議会のほうに流れをつくるようなことは結びつけられると思うので。

○鈴木委員 そしたら、それごもっともだけど、そのとおり、それで。

○星副委員長 あとプラス、それぞれ皆さん、お友達とか、後援会の方いらっしゃるでしょうから、その中でも意見を持っている子がいると思うので、そういう方にぜひ意見言ってもらえませんかという呼びかけはできると思うので、自分の御努力と、あと議会全体としてはそういったその報告会なりで、出前講座なり、様々な機会を通して、ぜひ模擬議会のほうで、意見、言ってくださいっていうようなことをこうアナウンスできるようにしてはどうかと思います。

○鈴木委員 そういうことを委員長が言ってもらえ

れば。個人プレーで1人が1人の人間を集めてくれじゃなくて。

○齋藤委員長 揚げ足取られて言われちゃうと、困っちゃう。

○鈴木委員 揚げ足取りじゃない。

○齋藤委員長 いやいやいや、ああ言えば、こう言うのばかり、人の意見とって、ただ、合併させるだけじゃないですか、さっきから。

ちょっと待ってください。待ってください。まず、何を御心配なされて、何を私たちに言いたいのか、星さんが言ったら、その意見だよって言われちゃったら、何を、私たちは今協議してたんですか。

伸彦さんは何言ったって、3人、5人で、さっきは五、六人、ちょっと増えましたけど、何を、何を、なんで伸彦さんにその決定権があるんですか。

○鈴木委員 決定はあると言ってない。

○齋藤委員長 いいですか、平行線もいいところです。申し訳ないですけど。

とにかくやってもいいよっていうところを今もらったんで、それ以外の建設的な意見をいただければと思うんですけども。

○小島委員 いただけるということで、いいんじゃないんですか。

○齋藤委員長 大丈夫ですか。

○山形委員 もう最初の事業なんで、もう人集めとかも、何だってそうだと思うので、できない理由言ったらきりがないと思うので、最初はもうこれ、最初、チャレンジの模擬議会だと思って、みんなで頑張っていかないと、足並みそろえていかないと、逆に、那須塩原市議会何だと思うので、その辺は最初のことなんで、私は、人が集まらなかったら、その後、反省すればいいと思うので、その辺で、鈴木伸彦委員は理解していただきたいと思うので。

結果のことは、後でいいじゃない。最初のことで、最初からうまくいくとは限らないので、そこはあんまり先に考えないで、これを前向きに考えていったほうが、私はいいんじゃないかな。

だったら、私はこれに対して、もっと建設的な意見だったら、じゃあ、これ、傍聴を認めましょうとか、議会の中継もつけてあげましょうとか、そうすればもっとこの議会の、模擬議会の魅力が高まるような建設的な意見のほうが私はいいと思うんですよ。

そうすれば、いろんな人が関わってくるというふうなことになるれば、この模擬議会の魅力が、伝わってくるんじゃないかなと思って、だから、傍聴も可能、今、言おうと思ったら全然違うほうの論点になってしまったんで、そういうふうな話合いのほうが私はいいと思うんで、人集めは二の次なんで、そういうふうな、なんせ、一番最初なんだから、それはやってみないと分からないと思いますんで、そういうふうな気持ちで皆さんで頑張っていきたいと思うんで、私はそんな意見です。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

ついでに、傍聴とネットでしょ、メモリましたから。

○山形委員 もし、これ、議会、これやるとしたら、議会運営委員会だけでやるのか、全員の皆さん、議員の協力も得るのか、その辺をどういうスタンスで考えてるのか。

○齊藤委員長 一応、中里委員、前に言ったと思うんですけど、広聴広報と、議運でまず設営部隊をやっていきながら、皆さんのこういった意見で静まっていった時に、執行部席には、全員座ってもらったらいいんじゃないかなと思ってます。

そこでまず座ること自体で皆さんの士気高まります。一般の市民が意見言うところを面と向かって聞くわけですから。だから、あの議会全体とし

てお迎え、姿勢があったほうがいいとは思っていた。ただ、準備に26人、全員を集めちゃうと、一人一人教えるのも大変なんで、せめてものやってほしいこととかを、今、広聴でいろいろやってくれてるのと全く同じ方式でいこうかなとは思いません。

○山形委員 あと、やっぱり私的には、当日は皆さんに来ていただいて、何か、1つの委員会が委員会だけがやってるというふうにとらわれちゃうと、あれなんで、当日は皆さん何かしら、来ていただけるとか、そういうふうな、議会全体で取り組んでいくような、そのせつかく、模擬議会ということでやりますので、そんなことも、もし、やれば、検討していただきたいと思います。

○齊藤委員長 ありがとうございます。これ自身はそこまで、今言ってるところで反対がなければ、議会のほうで受ける話なんで、執行部でやる場合は、議員のやるところがないから、来ても来なくてもってなっちゃうんですけど、これ設営も含めて全部議会でやるほうなので、皆さんの協力はいただきたいと思ってます。それを、後で議長名で出してもらえるかどうかはまだそこまで行っていないので、とりあえずは今、チラシでこういった形でやっていくっていう前段の話ですね。

議論をいただいた中で、また、修正なり、何なりで、集める、結局は声かけですから、それで人を集めていくっていう感じになります。

そのほかございますか。

ちょっと、時間のほう、間違っちゃったんで、1時から4時が終了なんで、1時、4時はちょっと直させていただきます。

これ以外で、もし、こういったチラシで何を言っているかわかんないっていう人のために、先ほど言ったとおり、体験ですから、あくまで、物事を言ってみようっていうことは、各種、議会で行

っているイベントというか、事業に関しては、これからやるごとにお声がけをそれぞれの人をお願いをして、なおかつ、一本釣りじゃべってくれそうな団体であったり、知り合いであったり、こういったもので、言ってみたい人いないかなってことで声がけを依頼するっていうこと、その中で何を心配してるかっていうとしたら、思ったことを議場でマイクを通して言っていたかということになるので、サポート自体は自分たちでしっかりとカバーを入りますからっていう形で、1人でも多くの方が集まってくればいいかなって思っています。なので、取りあえずはこの形で、あと申込みフォームもまだ作ってないので、そちらのほうもでき次第、また、皆さんのほうにお示ししたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

21日が、そんなわけで、黒丸のほうに、全協いつだっけ、18だよ、18の全協前にまたちょっと、お示して、チラシとかは、取りあえず、チラシに関しては、全協で言わないと皆さんに御協力依頼ができないのと、黒南だけ先行して配るようになってしまうので、一応、形上はチラシに関しては全協のほうで示させていただきたいと思ひます。

また、直したやつは、サイボウズになってしまうんですけども、よろしくお願ひしたいと思います。

○小島委員 1つだけお願ひします。模擬議会始まるのはいいんだけど、議場で思ひを伝えようって、ほんとよく分からないと、これ、一番やっぱり、議場っていうと、やっぱり質問っていう意識が働くので、思ひを伝えようを、もう少し、でっかく書かないと。それだけが、ピント外れちゃうとあつが大変だと思ひます。

○齊藤委員長 分かりました。じゃあ、ここは変えようと思ひます。

議場で思ひを伝えようと、模擬議会が始まるを交換しちゃいますか。

○小島委員 そうすると、そのほうがいいかもしない。

○齊藤委員長 それもちよつと考えてみますね。

○小島委員 うん。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

そのほかどうでしょうか。

[発言する人なし]

○齊藤委員長 ではなければ、一応、この形で、ちよつとまた進めていきたいと思ひます。

課題に関しては、また、共有できるようにしたいと思ひますというのと、あと、グーグルフォームのほうはちよつと事務局のほうの連携ができていないんで、そこを、今度、はめ込んだやつをまた、皆さんのほうにちゃんと送りたいと思ひますので、ぜひ、協力いただいて、来年1月21日なので、1人でも多くの方、お誘ひいただけるようにお願ひしたいと思います。

こちら、閉じたいと思ひますけど、よろしいですか。

[「はい」と言う人あり]

○齊藤委員長 いろいろとありがとうございました。

○増田事務局長 委員長、確認いいですか。

○齊藤委員長 はい、どうぞ。

○増田事務局長 土曜日なんで、庁舎入り口、正面玄関から入っていただく予定ですか、それとも、職員玄関から入って。

○齊藤委員長 そもそも、それが分かったらいいんですけど、開かない感じ。

○増田事務局長 そうですね、日直しかいないというところで、職員玄関と、横のところからでしたら、通常、入っていただける。

○齊藤委員長 じゃあ、看板か何か用意しておくようですね、入り口。

○増田事務局長 先ほど、私、財政課に確認しにいったんですけども、まだ、これ、許可得てないみたいで。許可申請がまだしていない。

○齊藤委員長 ああ、そうですか。

○増田事務局長 あとは、正面玄関は比較的大丈夫かと。

○齊藤委員長 一応、皆さん、ここで、別な心配をしたけど、模擬議会自体は反対は出ていないので、ぜひ交渉してもらいたいんですけど。

○増田事務局長 できれば正面使えるんだったら、正面。

○齊藤委員長 正面のほうが助かります。

○星副委員長 正面玄関だと、模擬議会に関係ない人が入ってしまうのでは。

○

○長岡議事調査係長 正面玄関からにして、届けがあったら、右側の職員玄関に来てもらって、名前をつければいいんじゃないかという形です。

○齊藤委員長 じゃあ、上に誘導して。別な人はあっち行ってと言わなきゃならないんで、入れるじゃんと言われて、いざこざになるのもあれなんですけど。

○森本委員 入ってもらうのは、構わないんじゃないですか。

○齊藤委員長 それ、やっちゃっていいかはまた聞いておいてもらっていいですか。その開いている最中だって、模擬議会じゃない人たちが来たときも、入れちゃっていいかかって、もめごとをしちやうと、担当の議員、かわいそうなんです。

○増田議会事務局長 大丈夫です。去年までの管財係長がここにいますから。

○相馬議事課長 できれば、土日、防犯の関係もありますから。議会報告会の看板があるので、

誘導してエレベーターに4階に上げてしまうというやり方のほうが、防犯上よろしいかと思います。

○齊藤委員長 分かりました。

駐車場、ここでいいですもんね。

それは、ちょっと、また、要は詳細をもう送りますというふうにはするので、今、呼ぶほうだけでちょっと協議します。

○小島委員 やるかどうか。

○齊藤委員長 よっぽど、中止の条件としてはコロナの何々株になったかどうか分からないですけど、そういったこと以外は、やりますので、あと、大雪とか、そういったことだけは一応、後で共有したいと思います。

局長大丈夫でしょうか、それで。

ありがとうございました。

では、こちら閉じます。

では次です。

トイレ行きたい人は行ってきてください。

(2)いきます。

1回休憩しますか。5分ぐらいですか。

頭が沸騰してしまったので。

休憩 午後 2時38分

再開 午後 2時44分

○齊藤委員長 ありがとうございました。

それでは、続きまして、(2)にいきます。

宇都宮共和大学パートナーシップ協定に基づく協力依頼についてということを経験にしたいと思います。

まず、事務局のほうから説明をお願いします。

係長。

○長岡議事調査係長 今の現状ということで、この宇都宮共和大学との協定のほう、7月のほうに締

結をさせていただきまして、8月に1度、サイボウズのほうで、どういった取組ありますかということでご意見のほうをいただいている段階というところでございます。

以上です。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

前回、サイボウズのほうで、各常任委員会であったりの人たちに、宇都宮共和大学とパートナーシップ協定に基づくものに関して研究したいものというメールというか、あれが送られてたと思います。

私は、副議長と相談していた中で、多少、僕の言ってるイメージと副議長が合わなかったんですけど、僕がこれ今回用意した意味合いはこのフォーマットなんです。

こういったものをつけていかないと、議案書を送りつけたから、その話の裁定はどうするんだっていうところが見えてこなくなっちゃうので、せめてもの、上につけるものとして、こういった依頼書をつけておけば、大学側から議会にお願いするものと、議会側から大学に用意するもの、お願いするものっていうものがあつたほうがいいんじゃないのかってことで、このフォーマットを用意させてもらったんです。

これ、完成形でもないんですけど、一応思いつくがごとく書かしてもらって、1枚目のほう、見ていただければ分かるとおりに、依頼者が誰なんだって言った時に、市議会としてはこの議会全体なのか、常任委員会なのか、政策検討委員会、これちょっと今から議論するんですけど、そういったものも含める。事務局も、一応これパートナーシップって、議会基本条例の中では、議会事務局っていう見出しがついてるんです。なので、これつけさせていただいております。

共和大学のほうからすれば、学生なのか、共和

大学には誰なのかと言った時には学生なのか、学識経験者なのか、あるいは先生、教員なのか、またまたサークルなのか、その他っていうふうに依頼者が誰なのかっていうものをまず1点、つけさせていただきました。依頼テーマはここに書いてください。協力の依頼をする相手、こちらは大学の誰を対象にしたいのかっていうのを選ばしてもらって、で、依頼内容としては、議会または事務局の場合は、意見交換をしたいのか、原案審査に関わる協力をいただきたいのか、計画条例の政策、つくりたいからこれをするのかというものにしました。それ以外、その他に書いて、共和大学としては意見交換を大学側から議員としたいとか、あとは主権者教育をお願いしたい、あるいはフィールドワークで受け入れてもらいたい。それからインターンシップとして、議員の横につけたいとか、その他ってことでは出さしてもらいました。

その方法、方法としては、お互いに呼ぶときに現地派遣をお願いしたいとか、調査研究だけをしてもらいたいのか、オンラインとして会議をしたいのか、メールのやり取りをしたいとか、あと、現地訪問、どっかの場所、こういったものをしてもらいたいのか、っていうふうにつくってみました。

次のページになるんですが、次のページに行った時に、日程、1日だけで終わらず場合は上、何日から何か月、3か月ぐらいかけてやりたければ、下、具体的な内容をここに書きます。こういったものをやっていったらいいんじゃないですか。添付資料がある場合にはここにチェックをつけると。次に依頼内容に対する回答欄、ここが肝心なんですけど、議会側も大学側も、それは難しくできませんとか、それはできますっていうふうなのを、確認を取った後にやっていくほうが、パートナーシップらしいんじゃないかっていうことで、私こ

れつくらせてもらってます。詳細の打合わせ、日程事項は、協力ができますって言った後に、もう一度連絡を取り合ってやるべきだっていうことで、第1候補日はこの日にします。第2候補日はこの日にしますっていうふうにやっていったらどうかと思ってます。備考は自由に書いてください。返信先をそれぞれ電話番号とメール、ごめんなさい、ファックス、メール、電話っていうふうに書かせてもらいました。

せっかくパートナーシップまで結んだのに、一方的に議会が何かをやりたいからって、大学を依頼してるばっかではなくて、大学側にもしっかりとこういった形で議会側でも受け入れますっていう体裁がある形を取ることで、お互いうまく、流れが取れるんじゃないかっていうことで、今回一旦預からしてもらって、ちょっと時間遅くなってしまって申し訳なかったんですけども、こういったものをつけてたらどうかっていうことで提案させていただきたいと思います。

このまとめ、意見をいただくのと同時に、基本条例の中で、議会という表現をしている中に、議会活動、議員活動の定義なんですけども、その議員活動の部分も多少入れてもいいんじゃないのかなって思ったりもしてるので、一応その1枚目の市議会のところに、その他で党派研究会って書いてしまったんですけど、この辺の議論も併せて、皆さんの意見を聞きたいと思います。

御意見ください。

森本さん。

○森本委員 とても分かりやすく、しかも、双方向で使えて、とてもよくできてるなっていうふうに、まず思いました。

1つ思ったのは、依頼テーマっていうこと、多分、この依頼に関するタイトルの部分があると思うんですけど、これ、もうちょっと上に書いた

ほうがいいかなってというのは、ちょっと感じました。やっぱりこれ、何に関する依頼なのかっていうのって、上のほうにあったほうは、好みかもしれないけど、いや、俺、ここがいいんだってでもいいんですけど、ちょっと上のほうが何かしっくりくるかなって気がしたんで。

依頼者っていうところが下になってるじゃないですか。上だったじゃないですか。じゃなくて、まずテーマがあって、こういうことやりたいんですって言ってから、依頼者のほうが、何か好み、いや、俺、逆だって言われたら何とも言えないですけど、一応、ちょっとそういうなのを感じました。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

間にこれ、わざとかましたんですけど、上に書いちゃうと、依頼者なのか依頼をする相手なのか分かりづらくなるから。

○森本委員 双方向で使うから、余計ですね。

○齊藤委員長 そうなんです。

○森本委員 双方向で使えるから、それも思ったんですけど。

○齊藤委員長 分かるだろうと言われれば分かりますけど。

御意見ありがとうございます。

○森本委員 検討してもらえれば、どっちでもいいと思います。

○齊藤委員長 これをくっつけて、というのと、あと、その先も渡そう。

フォーマットの何となく大丈夫ですか。

こういったものを使いましょうということ。よろしいですか。

はい、山形委員。

○山形委員 市議会のところで、議会全体、常任委員会というふうに書いてあって、例えば常任委員会以外のものだと、その他とかになるんで、例え

ば、議会活性化特別委員会とか、例えば議会運営委員会っていうふうに、常任委員会以外の委員会もある時もあると思うんですが、そういった時はその他になるので、何かそこを分かりやすく。

○齊藤委員長 ばってつくったので、誰が一番頼む率が高いかなと思っただけなんで、議運で足せば足せんですけど、あとは全体的にこれが一番動くのかなって思ったのをラインナップしただけで、あとはその他にしてもいいんですけど、先ほども言ったとおり、ここの会派と研究会ってのは、本当は消えますから、これは今ここで皆さんで話して、会派でも、議員個人がちょっと難しいんですけど、ではなくて、政策検討会議で委員会に上がる前までの研究会の時にも、大学生と意見交換したいっていう人用にしてもいいんじゃないのかっていうルールをしただけであって、これは多分、ガイドラインのほうにもそこまでは書いてないですよ。中身はね。

なんで、これ結構まだ決めることが実はあったりもして、確認はしていたつもりなんですけど、なので、今の、議運を入れましょうって言えば、入れることはできますし、別にそれは書けばいいんじゃないって言えば、このままでもいいとは思ったんで、書けば書くほど、枠がでかくなって2ページにきれいにまとめた人間なので、枠が下にいくと嫌だ、ただ、それだけなんです。

でも、その他に記すればいいかなって。

○山形委員 各種委員会とか、何かうまく、でも大丈夫、分かるか。

○齊藤委員長 その他につけて、要は、みんな、これ自体が何なのって、大学側は思ってしまうんで、何言っているか分かんないと思うんです。市議会につけてけば本当はほんとはいいんですけど、自分たちで何でつけたかを残しておかないと、何で依頼してたか、分かんないところもあるので。

副議長。

○相馬副議長 今の一番最初のところの議論については、うちのほうで決めることができるのかどうかはそれも含めて大学側と打合わせしてもらったほうがいいんじゃないかなと思います。

最初スタートした段階では、あくまでも議会からの依頼というところで、パートナーシップ契約も、議長名と須賀先生、学長さんの名義でパートナーシップ契約をしてるということになって、僕は1回ちらっと聞いた内容としては、事務局も、議会としてくるんでしょうか、そういうふうな言い方をされてたんで、ということは議会活動として認められたものが来るんだろうという認識で向こうはいると思うんです。

政策検討委員会も政策検討委員会、分科会か、何でしたっけ、政策検討委員会分科会っていうところまで認められて、初めて議会活動というふうに、政策形成サイクルではなっているはずなので、その辺を、じゃあ研究会の段階で大学側が、それで受け入れてくれるかどうかは、大学側と1回打合わせしてもらって、会派っていうのはどういうスタンスなのかっていうのも、ある程度大学側に聞いてもらって、それでも受け入れるのかどうかは、うちで決めることももちろん必要ですけど、大学側はどういうスタンスで受け入れてくれるのか、大学側から要請するとすればどういうスタンスで要請してくるのかっていう辺りを、ちょっと事務的のところは一旦聞いてもらってから、この内容は、うちは、こちらの市議会だけで決められるものなのかどうかは1回聞いてもらったほうがいいんじゃないかなと思います。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

でも、これを紙を出して浮き彫りになったから、今みたいな話にこう視覚化されてるので、これ持ってって、このとおりじゃなくてもいいので、こ

れ持ってって話して、また変えればいいかなと思ったんです。

結局いろんな話をしておかないと言った言わないになっちゃうのが一番嫌なんです。こう言ったじゃないですかみたいな。

そもそも議会活動と議員活動を多分大学側が理解することはないので、全部、市議会として捉えられちゃうんですね。

今、山形さんが言ってくれたけど、この市議会の要望にチェックつける理由は、自分たちがどれで言ってるかっていうのを明確に残しとくためっていうふうに思えば、このチェック項目は必要かなと思ってんです。

研究会の段階から絡めていけば、より、やっていくまでに何回も話合いができるので、またお話しすればいいんじゃないかってアドバイスもらったんであれば、ぜひ研究会の段階からも入れさせてもらえたらいいんですって、僕は言いたいと思うんです。せっかくつくるんだったら。

分科会までいくってことは大体煮詰まっちゃってるので、そこで意見だけ聞くと、大学生の顔が見たくなっちゃうんで、だったら0からつくろうと思ってんだってところから、興味ある子に入ってもらったほうがいいんじゃないのか。

そのために、相手もわざとサークルとか書いてみたんですけど、サークルがあるかどうかも分かんないけど、こういったイメージで、一遍大学側と打合わせをすれば、その相手側が何でそれを選んできたかも分かるし、事務局側がサークルって選んだけど、そんなサークルないから、じゃあ、大学生でいいですか、チェンジすることもできると思うんですよね。

なんで、僕たちもメニューが分からない状態なので、これで視覚化して、自分たちから誰を求めたいのか、あるいはちょっと分からないのでこち

らからチョイスしてもらえませんかというオーダーもまだ書いてないけど、そういったふうにある程度、お互いが意識を共有し合っていくしかないのかなって。

ただでさえ、いろんなのが活発していけば、3本も4本も同時に出る可能性も出てくるので、よりこういったものがあつたほうがいいんじゃないのかっていうふうには思ってます。

一応こっち側としては、議員としては多分、今言ったとおり、研究会レベルからでも、会派のレベルからでもあつてもいいんじゃないのかっていうのを、うちらが一応今年、取組実行計画でこれ、決定権をいただいでるので、皆さんのほうで構わないよっていうんだったら、その形に今年度はやってみたらどうかと思うんですけどっていうのを聞きたかつたんです、今。

○相馬副議長 分かりました。

○齊藤委員長 どうですか。

個人はちょっとやめたいんです。何を聞きに来るか分からなくて、情報も多分、事務局にも返ってこない可能性があるから、何をされるか分からないので。

会派もちょっと危なければ、じゃあ、研究会でもいいかもなんですけど。

せめて研究会は、それこそ意識があつて組んでいく人たちの、目的がしっかりしてる、研究会って、会派だと何か危ない可能性もあるんですけど。

だから、ちょっと御意見いただければなと思うんですけど、どうですか。

簡単に言うと、会派か、研究会か、個人か。

○小島委員 中身的には、その会派とかは実際には、連携することのほうが難しいと思ったんですよ。

大体にして、宇都宮共和大学の先生方が何を研究してるのかも、俺ら分かんない。

○齊藤委員長 そうそうそう。

○小島委員 それがあって、そして、お互い向こうもこっちは分からないと思う。

○齊藤委員長 そうです。

○小島委員 だからそこが、同一のフィールドがどこにあるのかが分かんないっていうのが、今も。

○齊藤委員長 おっしゃるとおりです。

○小島委員 フィールドを見つけないことには絶対、何も生まれてこない。

○齊藤委員長 面白いですね。

○小島委員 これは正式にやったり、期待するんだけど、形式的なやつなんで、その前の何かがないと生まれてこないっていう。

○齊藤委員長 だから分かってください。

これを持ってって埋めましょうっていうことなんです。これを持っていくことによって、今言ったとおり、うちの議会に何があって、何ができるという。

○小島委員 何かの、例えば、議運と、向こうの部長クラスの連中との交流会とか、そういうのが1回でもあって、それからじゃないと、こういうのって書けないと。何も。

相手が分からないんだ。

○森本委員 宇都宮共和大学で何がやっているかが分からないから協力できないという話ですよ。

○小島委員 そういうことじゃないけど、でも、近い。

○森本委員 宇都宮共和大学でどういう活動があって、どんな研究をしているかなんていうのは、ホームページ見ればすぐに分かります。

○小島委員 それは分かるよ。

○森本委員 それは分かるし、その中で、自分たちの政策検討研究会とかやるときに、そこでのことで、学生だったりとか、先生たちのそういう意見とか、考え方とかを聞きたいというケースっていうのは生まれてくると思うんですね。

そのためのパートナーシップだと思うんですよ。

それで、何やっているか分からないから何も聞けないというんだったら、パートナーシップ自体を否定していると思います。

○齊藤委員長 さっきの僕のチラシみたくなるので、やめてください。

毎回同じことです。

ちょっとやめてください。

小島さんは、ちょっと、理屈過ぎますね。

○小島委員 いやいや。

○齊藤委員長 それが全てオクケーだと思わないし、僕、メニューを用意しますと言っているのに、これを置かないとその前の段階で必要ないって、こういう言い方をしちゃいけないと思うんですよ。

○小島委員 いや、これはこれで、形はいい。

○齊藤委員長 だったら、この話をしているので、この話を持っていった先に、今の小島さんの意見を言って、聞いてくればいいんじゃないのかと言えればいいだけの話なんですよ。僕も、それ、否定していないので。

そうじゃないですか。この紙の話をしているのか、その何をやっていいか分からないことを言いたいのか、ばらばらなんです、小島さんの言っていることは。

これに補足するんだったら、学部の紹介とかをやって、うちたちが選べるのか、あるいは、うちたちのやっている内容を向こうに、草稿にして分かるようにしないと、選べないというんだったら、分かるんです、言い方的に。

それで言うてくれればいだけで、この紙があったからこの議論になったけど、この紙がないまま、パートナーシップでやるとなっていたんです。

それじゃ、もっと大変でしょう。だから、それじゃ、失礼に値しちゃうから、これをつくったわけですよ。

この後に、今みたいな問題が出てくるから、じゃあ、そもそも、小島さんたちが、政策研究会、自由にやりましようと言ったときに、今みたいな意見になれば、相手の学校って、何学部があんだんべと言ったら、森本さんが、聞けば分かるからと言って、出せばいいだけの話なんで、そのこのフォーマットだけです、これ、言っているの。

それを持って行って、打合わせをしてくださいだけの話なんです。これを使ってやろうと言っているわけじゃないんですよ。これを持って行って話し合いにいったよと思うんですけど、向こうの事務局と。

こういったやりとりを今後していきますからねというための話をしているんです。

これ、一方的に決まったら、流すわけじゃないですよ。

○星副委員長　なので、2枚目のところに、協力できます、できませんっていうのも、きちんとかけるようになってるんで。

○山形委員　依頼テーマがちょっとそぐわなければファックスで向こうから協力できませんってそれで、自分の学部と学校に。

○齊藤委員長　相手方にも、これを置いてくるんです。納得してもらえれば。置かないと。

小島さんのやつはまた別な案件としての課題です。だからそれは俺も分かって理解してますよって話。

なので、これ、できないよとかっていう言い方を言ったら、また、森本さんがやめろとかってなっちゃうんで。

○小島委員　それじゃなくて、取りあえず、様式なら様式としていいねって、それ、否定しないよ。

○齊藤委員長　それ、言ってから、言ってくれれば。それでもうすごくいい、建設的な意見をもらったので、じゃあ、そういう学部をどうやって紹介す

るかは今後話して聞いてきますんで。

まだ、どうやっていいか、うちらも分かんないものですから。そう、この先、足なければ、副議長が言ってる通り、どんどんどんどん、内容を増やしていけばいいんですよ。足らなければ。

なので、1つ、せっかく、パートナーシップを結んだので、これをうまく円滑に回すための1つの材料です、これ。

まだ足りないこといっぱいあります。思いついて書いたんですけど、頑張ってる。

○小島委員　了解しました。

○齊藤委員長　そうです。

ということで、大丈夫ですか。フォーマットの。

今、言ったのは、もう1回戻しますが、会派と研究会とそこの部分をどうしますかっていう、ちょっと、議運の皆さんの共通認識だけほしいです。研究会だけにしときますか。会派だけにしときますか。僕が、先に言っとくのは、個人だけは反対したいです。

○鈴木委員　じゃあ、その他、会派、研究会等って、等とつけてたらいいいじゃないですか。

○中里委員　会派は入れないほうがいいかなと思います。

○齊藤委員長　オッケーです。

○中里委員　なぜかと言いますと、まずは議会全体で運用してみてどうなのかっていうところもありますし、あと、那須塩原市議会では会派と認められるのは2人以上ってなりましたよね。1人の、1人で活動されてる方もいらっしゃる中で、不公平だっていう話も出てきちゃうので、まずは会派は含めなくていいのかな。個人的には思います。

○齊藤委員長　はい。ありがとうございます。

もう決まりでいいです。

研究会でもいいと思うんですけど。

○相馬副議長 できれば、それでお願いをしたいと思います。

○齊藤委員長 じゃあ、その他の前に、研究会って、ちょっと、大学側には分かんないと思うんですけど、研究会つけさせていただいて、その他は、括弧書きにするってことで、会派を消します。

それでよろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○齊藤委員長 その他、結局、会派と書いたら、一緒じゃなかって言うんだけどそれは出す前に必ず事務局に見ていただいてやるということで、出す前に、今言ったとおりのところで、あともう1つ、先ほども言ったんですけど、この紙を出す時に、誰の承認をもって出すべきなんだと、思ったら出していいのかっていうと、じゃ議長の何かが必要なのかというところをちょっと議論したいと。

○相馬副議長委員 政策形成サイクルを使うしかなくなっちゃう。

○齊藤委員長 あそこで決まってから出すっていうサイクルを回してからしか送れないのか、そこをちょっと考えなきゃいけない。

そうすると、研究会のレベルだと出せなくなっちゃうんですよ。

だから、一旦、誰かがこれいいんじゃないかって言って、出すように、議論をしなきゃいけない。じゃないと急に事務局行って、うちら研究会、10個ぐらいあって、これ出してくれるって始まっちゃうので。

○相馬副議長 だから、政策形成サイクルであったように、政策検討委員会、分科会っていうふうになるのは政策検討委員会の役員はたしか会派代表者と、誰でしたっけ。

○齊藤委員長 常任委員長。

○相馬副議長 併せて、一旦、そこで諮ってそうすると、そこで一旦諮ると、それが政策検討委員会分科会っていうふうになる。

最終的に全体会まで持ってくるんですけど、その段階で一旦その政策検討委員会の中で分科会、承認を受けたもの、というくくりになってしまうのかな。そうすると、テーマ自体は何を研究するのかっていうのは全議員に一旦知らしめる形にはなるので、そこまでしなくて、もう。完全に、ただ3人の研究会をもっていくのかっていう、先ほど言ったように、大学側からすると議会から来るよっていう認識でいるんだとすれば、やっぱり議会活動的なところまでは行かないと、という難しいところがあるのかなっていう、研究会で3人でぼんて出して、事務局で判断してもらって、これでもう大学のほうに投げてもらって、それが一番楽っちゃ楽なんで、大学のほうにも投げておいて、あとは大学の判断ですよっていうふうにしてもらうのが一番、議会として、我々としては一番いい。

○齊藤委員長 検討委員会、これ、呼ぶじゃないですか。先ほど、会派代表のときのそのときのフォーマットありますよね、議題とか背景とか、フォーマット、あれを出した時点でこうやろうと思うんですけど、認められた段階のレベルも、3人でやろうぜつって、まだそこまでいってないけど、やるのも、その形の会を通してのだけであって、レベル的には確かに一緒なんですけど、ある程度委員会に出すレベルって、うまくできたものを出すイメージなんですよ。

だから、研究会でやりたいときに話するのに、委員会レベルまで上げないってなると話固まっちゃうんじゃないかねえかと思っちゃって。

だって、外堀だけで出せるほど器用だったらいいんですけど、大体、うち、固めちゃうでしょ、

これ。

それで1回出しちゃうと、大学生にただ聞くだけでいいよねってなっちゃうんじゃないかと思って、その自由度がちょっと僕が難しく捉えなんですけど。

だから、研究会の自由度があって、それこそサークルレベルって言い方、悪いけど、どうやったらいいつつって、大学生と意見交換するレベルだって、研究会の調査の資料としてはそのエビデンスにはなるわけですよ。

なんでその自由度がどうかなっていうところがあります。副議長が言ってる分科会レベルになると、もうある意味ワンステップもう上がってるみたいな感じ。

今後の予定で大学生との意見交換をつけるのももちろんありきなんですけど、最初の段階であってもちょっとこれ空想で言ってるだけなんですけど、やり出す時には、まあ面白いんじゃないのかなと、なかなか手つける人はいないと思うんですけど。

なんで無駄に研究会って書いといても、相手方は全部議会だと思んじゃないかってことで。

要は分科会と研究会は委員会を通っているか、通ってないだけの話のレベルなので。

なので、一応さっきのでもいいですか。

委員会で、研究会をつけておいて、その他は括弧にして。

もう1回戻って、権限的にどうしましょう。

ファックスをこれ出すのに、テーマが。

○鈴木委員 そしたら。

○齊藤委員長 すごい、ウクライナ侵攻の、ロシアに対して何とかテーマとかがっていった時に、おいて、こう止める人が誰もいないままファックスしちゃっていいのかっていう。

その決定権をどうしたら。

○鈴木委員 ちょっといいですか。

○齊藤委員長 何かずれちゃう。

○鈴木委員 いえいえ、いつも、どこから話しているかわからない。

取りあえず話してる内容は、政策形成サイクルっていうことが出てきて、なるべくそこで、パートナーシップを利用するんだなってのは分かったわね。

そうすると、その中で、単純に、俺、議長かなと思ったんだけど、言ってる話も分かったんで、政策、頼みたいのは、政策形成サイクルのちょっとそのフローシートを見て、どの段階でこれ出すかによって、その会議の時にどこで諮ろうかっていうことじゃないのかな。

○齊藤委員長 でも、おっしゃるとおりですね。

○鈴木委員 それをちょっと、送らないと、今探したんですけど、わからないんです。

○齊藤委員長 政策形成サイクルの図。

○森本委員 フローチャート。

○鈴木委員 そうそうそう。

○森本委員 全部特別委員会の中に入っています。

○鈴木委員 あの中で、活用するのであれば、この時点でもう上まで終わりがなくて、この時点でじゃあ頼んでみるとか。

○齊藤委員長 検討委員会まで乗せてからやれば、ここの段階ではふるいにかけてから問題ないだろうってことですよ。

○鈴木委員 そうそう。

○齊藤委員長 俺が。

○鈴木委員 議長は、議長で、1回出しただけ。

○齊藤委員長 研究会レベルにしちゃうと委員会通さないから、さっきの謎のテーマでも出される可能性のあれが必要になっちゃうんだね。

○鈴木委員 それを見て、ちょっと、話をした方がビジュアル的に分かる。

○齊藤委員長 今言われてナイスと思いました。  
どうするかな。  
じゃあ、いいのかな、分科会にしてもいいのかな。  
大丈夫ですか。

○小島委員 言うと、私は3人のあれでも。

○齊藤委員長 研究会。

○小島委員 研究会のそれでいいと思う。

ただし、それを3人だけじゃなくて、議員が、  
これこれを出しますよって連絡すれば、それは終  
わりだべ。

○齋藤委員長 やばい回答が出てきたと。

○小島委員 いやいや。だから、それを議員に、議  
会事務局に出すじゃない、それ。そして、それを  
例えば、議員全員に、こういうことでこういうグ  
ループで出しますよっていう、オープンにすると、  
公表するなら、それはもう全然オッケーじゃない  
ですか。

○山形委員 例えば全協なんかで、こういうふうな  
ので、今度、依頼書を出しますけれども、いかが  
ですかって、そこである程度質疑をかまして、い  
や、これはああだ、こうだっていうふうなとこで  
ってことで。

○森本委員 議会でもいいです。

○小島委員 ほとんど今、駄目だって言う人はいな  
いじゃない。

○齊藤委員長 だから、駄目駄目って言う人はいる。

○小島委員 それぐらいじゃないと、政策進まない  
よ。

○松田議長 やっぱ、ある程度、迅速に対応する  
には、検討会、研究会の段階で議長判断でやるの  
が一番スムーズなんじゃないか。

1回、上まで上げちゃうと、もう必ずテーマを  
しっかりしてたもので、その前の段階の研究が一

番大切じゃないですか。こういうもの。

出来上がったものをそのまま、それはできるけ  
ど、研究会と。

○齊藤委員長 議長、発言してます。

○松田議長 研究会の段階で、やっぱり議長判断で  
調整とって、もし、そのテーマ自体が、議長と、  
執行部、事務局とで、これはちょっと、テーマと  
してはおかしいだろうというようなそれは大体、  
議長クラスになれば、大体判断できるだろうと思  
うんで、ただ、それを全て上に上げて、そこでき  
っちりした政策研究会でやるってなってくると、  
硬い。

だったらば、やっぱり研究会の段階で大学、せ  
っかくパートナーシップ取ってるんで、大学の先  
生方と、それまでに上げるまでの準備段階は、議  
長判断でいいと思うんですよね。

じゃないと、取り回しがいちいち、かっちりか  
っちりやってたら、難しいと思うんですよ。

○鈴木委員 勝手なことをやらないで、公表して、  
行動すると、そういうことだよな。

○松田議長 そうそう。

勝手にするのはまずいんだよね、やっぱり。

一言、こういうのをやりたいんだということで、  
やれば。

○鈴木委員 やってるよっていうことを言って。

○松田議長 あからさまにおかしいテーマだったら、  
それはどけるべきですし、そういう議論はあまり  
ないと思いますけど。

ただ、やっぱりその辺はいいと思います。議長  
の判断でやらせるっていうのがいいんじゃないか  
と。今後ね。

○齊藤委員長 ありがとうございます。

○松田議長 研究会でも。

○齊藤委員長 議長が今言ってくれたので、助かり  
ました。

研究会に関しては、事務局に、一回どうせ流さないで流せないで、一回通りますから、そのときにもし研究会の場合は、議長に一応判断を委ねるといふ形に取ります。

さっき伸彦さんが言ってくれたとおり、研究会が検討委員会になれば、ここで諮ってるので、そこはもう何も通すも、通さないも、ここで潰せませんから、言い方悪いですけど、なんで、そこはその流れで行くと。

だから、議長判断というよりは、ここで会派代表も常任委員長がいる中で、いいですよって言われたら、もう研究できるわけですから、研究会の話だけは、議長判断で、政策検討委員会の場合はそのまま直で事務局として流すということで、よろしいですかね。じゃあね。

ありがとうございます。すっきりしました。

○森本委員 じゃあ、流しますか。

○齊藤委員長 いや、流してください。見ませんけど。

うそです、うそです。

流してないの。

会議、終わっちゃった。

○森本委員 会議終わっちゃったんで。

○齊藤委員長 もう終わりにする、じゃあ。

○森本委員 いいですよ。通知来た人と来ない人がいる。

○森本委員 通知つくってたんで、すみません。

○齊藤委員長 今、行った、来てます。

議運で、書いてあるものです。

○森本委員 2ページのほうが分かりやすいかもしれない。1ページよりも。

○齊藤委員長 この調整会議がみんな呼ぶやつですよ。今、議運、会派代表とかね。

ということで、1枚目に書いてあるピンクの部

分ですね。政策研究会のレベルの時には、全議員というか、調整会議に入っていない段階で打診するので、理不尽なテーマとかで行かれてしまう可能性があるから、事務局出した時には議会、議長経由で判断してもらって流すというのが1つで、ちゃんと研究会から調整会議を通過して、検討委員会が発足してること、そのテーマが認められていることになってますので、その時には、議長判断のみならず、普通に事務局を通して要請を送ることができるという形になります。

向こうから、できませんって言われた時は、それは終わりです。それはさっきのフォーマットに戻るの、その部分だけ、いるってということと、あと、このフォーマットを持って共和大学と詰めていきますので、小島委員が言ってくれたところもある程度埋められればなと思ってます。

なるべくうまく活用していこうっていうのが趣旨でございますので、これ、前も言ったけど、1年間で切れるわけではなくて、一方から断られない限りは大丈夫だと思うんで、運用0っていうのもよくないし、せっかく大学生だから向こうから来てもらいたいなと思ってますから、うまく活用できればいいなって思ってます。

大丈夫ですかね。そんな感じで最後まで御理解いただいたということで。

[「はい」と言う人あり]

○齊藤委員長 御協議ありがとうございました。

こちらを基にさせていただきます。

続きまして、(3)です。

議会運営委員会研修会についてについてです。

こちら、事務局、お願いします。

係長。

○長岡議事調査係長 私の何か、会議を飛ばせませんですよ。

○齊藤委員長 今飛ばした。

○長岡議事調査係長 研修会、1ページ、ワンページだけのものになります。

年度の初めのほうで、研修会のほうを議運として取り組みますということをお話をいただいたものです。

ある程度固まってきたということで、皆さんの御予定をいただければということでこちら御紹介しているものです。

まず一番上、大場代表監査委員のほうからは、監査委員のお仕事というところで、あとは議会の選出監査委員の役割といった内容につきまして、11月2日水曜日1時から議場で行う予定としております。

また、2、3と2件、ほうからですが、研修のほうを予定しております。

まずは、2番目の政策形成サイクルについてということで、こちら11月21日の午後1時半から、場所のほうは、ちょっと広いところで、議員さん方、少し小グループという中でちょっと検討したいというふうなお話いただいておりますので、西那須野支所の301、303会議室のほうでの開催を予定しております。

そして、3番目が、まだテーマ等も決まっておられませんけれども、12月16日金曜日を議場で予定しているところです。

最後ですけれども、教育長のほうから、今年、様々な計画、来年度から新しい計画が始まるということで、教育長の考えの下どういった具体的なワクワクドキドキといったものの、実現に向けて行われるのかといったところの話を伺っていきたいと思っております。日にちですけれども、12月19日月曜日の午後1時半から議場を予定しているところです。

今のところ、決まっている内容は以上であります。なので御予定ください。

○齊藤委員長 ありがとうございます。ということで、11月2日に大場代表監査委員ということで、これも取組実行計画の中で、ユウの項目ではないんですけど、一応、議会基本条例には書いてないんですけども、今年取り上げてるテーマなので、この日の御予定お願いします。

マニフェスト研究所の政策形成サイクルに関しましては、マニ研の方から2回やったほうがいいことで、僕は1回でやりたかったんですけど、2回目になっちゃいました。1回目が11月21日ということで皆さんと意見交換をする。2回目には具体的にどういった形を通せば、こういった政策形成ができていくかっていうテーマでお願いいたしますので、ぜひとも御参加ください。

次の教育長の項目は同じことです。

それ以外のものなんですけど、ちょっと御予算がなくて、呼べないかもしれないところのなっちゃっているところもありますので、それはまたお話で決まり次第、相談していきたく思います。

議運の補正予算とかは取れない。

ちょっと削られすぎなので。

ということです。

では、3番のほうは、何かありますか。大丈夫ですか。

この日確定なので予定入れといてください。

〔「はい」と言う人あり〕

○齊藤委員長 続きまして、4番に移ります。

(4)で質問のあり方です。答弁者の指定についてです。こちらを事務局説明お願いいたします。

係長。

○長岡議事調査係長 それでは、こちら、ありがとうございます。答弁者の指定についてということで、今後、答弁者の指定について検討していきますよ、そういった方向のほうはまずは決めていた

だきまして、今回は具体的な運用のほうで御検討  
いただきたいなということで、こちらの資料のほ  
うを提示させていただきました。

まずはこちらの1番目の趣旨ですとか、法令の  
定め、これは前回見ていただいた内容と全く同じ  
ものです。趣旨としては、一般質問とか会派代表  
者の中で、答弁者のほうを指定できるようにした  
いといったことがあって、2番目のじゃあ、法令  
上の定めはどうかといったものですが、  
あくまでも、下線引いたところを見ていただきま  
すと、答弁者の指定というものは法律に基づく行  
為ではなくて、事実上の行為として指名をして、  
ただ答える執行部が答え、誰が答えるのかって  
いうものは、あくまで、執行部が決定する、答える  
側が決めるものですよといったものになります。

現状としましては、県内のほうで、2市やって  
いるところがございます。

4番目、指定についてのルールということで、  
質問の通告書提出の時点で、答弁書の答弁者の指  
名を他の議会か何かもそうなんですけれども、を  
しております。

ただ、②ということで、先ほども、最終的な答  
弁者というのは、あくまでも執行部が決めるとい  
うことで、③ということで、今回の指定をした場  
合、指定した以外の部長さんとかに答弁を求める  
のかといった基本的な部分で言えば、指名をして  
いる、あくまでも指名をしているので、それ以外  
の人に向けての答弁というのは、基本はできない  
のかなと。

そして、一方で、じゃあ全員を指名したらいい  
のかっていうなのもあるんですけども、ただ、  
それは運用上、やはり全員を指名したら結局指名  
してないのと全く同じ運用になってしまうのかな  
だと思います。

次のページちょっと御覧いただければと思いま

すけれども、実際の、では運用どのような形で行  
うか、まず①のほうで質問通告の段階で答弁者の  
ほうの指定をする形となります。ちょっと参考に、  
こんなイメージからなんですけれども、現在の通  
告の文章、一番右側に答弁を求めるものというよ  
うな欄を設けまして、大項目ごとに一番左の質問  
項目1. 何々、に対する答弁者を指定する人はじ  
ゃあ市長ですよ、部長ですよ、企画部長ですよ  
というふうに、この大項目に対して答弁を指定す  
るといような、ちょっとイメージをしていただ  
ければいいのかなと思います。

もう一度すみません、ちょっと戻っていただき  
まして、その大項目ごとに指名をするんですけれ  
ども、ここの2パターンで運用ということで、じ  
ゃあ、皆さんが指名をする、指名をしない方も、  
おそらく中には出てくるんだと思うんです。です  
ので、じゃあ、指名ありパターンと指名なしパタ  
ーン、この2つで運用されてはどうかと、じゃあ、  
指名なしパターンという場合は、右側に、答弁に  
求めるものに、市長と関係部長、あくまで全体に  
対しているようにして、そして、指定ありパター  
ンとしては、市長と、例えば保健福祉部長、  
部長子ども未来部、福祉部分だけ、今回は聞くよ  
うにという指名をしているケースもあった、この  
2つで。

留意事項としては先ほども、ちょっとあったん  
ですけども、全ての部長さんを記載してしまうと、  
そもそもそれは指定ではないことで、では実際の  
今度質問の運用の中でということになりますけれ  
ども、②のちょっと中段のところ、見ていただ  
ければと思いますが、あくまで最初の答弁は基本  
的には市長か、あとは部長さんかかっていう執行  
部で、代表者の場合はおそらくほとんど市長がしゃ  
べってらっしゃるかと思うんですね。

一般質問のほうは、市長か、あとはその関係す

る部長さんかというのが、執行部が決めて、最初は答弁しております。

なので、最初の答弁は執行部が受けて、再質問になったら、答弁者の指定をするというふうな運用ではどうかと。

ただっていうところで、やはり留意事項としては、最終的には執行部が答弁者っていうのは決めるものなんです。

最初のルールの方にも、指名した部長さんだけにしか求めないということでしたので、指定した部長さん以外の答弁は基本的には求めない。

その指名の方法については、質問する中で四角、四角の点について誰々部長にお伺いしますというふうな、質問の途中で聞く相手が変わる場合には、その時に、じゃあ、こういった点については、じゃあ、誰々部長をお願いします。保健福祉部長をお願いします。じゃあ、Bの部分については、企画部長をお願いしますっていうふうに、質問の中で、指定が変わる場合には、質問の中に入れていただく。

そして、ちょっと運用の、インターネット中継のテロップにはというので、やはりどうしてもちょっと噛み合わないケースも出てきてしまうんじゃないかなと思うんです。

ただ、基本的には、執行部が答える、答える側の誰が答えるかっていうのは、執行部は決めるものなので、あくまで、ちょっと一致しない場合がありますよというような形が、ただし書をしてはどうかと。運用を受けて、じゃあ、その指定については、論点というところで、答弁者の記載っていうのはどこまでしますか、基本的にはその答弁を求める相手って議場にいる人だと思っただけですね。現在いる方としては市長以下、財政課長とか、課長まで入ってくる。

ただ、その方たちを指定する。あとちょっと表

記の問題としてなんですけれども、水道事業管理者の指定がなって、市長がなってますので、じゃあ、水道事業管理者って書くと、市長、市長イコール水道事業管理者なんですけれども、ちょっと表記として一般市民から分かりづらいということで、そこは市長に統一している。他の議会なんかもそうされてました、にしてはどうか。まずはこの議場にいる人が対象ですよっていう確認、そして、②ですけれども、例えば、丸々部長にお伺いしますって聞いた時に、ただ、実際は運用しているのは保健福祉部長に聞いたけど、実際は子ども未来部長だったりするケースもあると思うんですね。そうした場合に、実務担当してるのは子ども未来部なんでっていうことで、未来部長が答えた後に、今度、未来部長に対して質問できるかっていった時に、保健福祉部長しか指名してなかった場合、今度、未来部長が、この未来部長がちょっと指定に入ってないんで、その場合、どうするかな、今のルールで言うと、指名してないといけない、ということにはなってしまうんですけれども、そこら辺をちょっとどうするか。ここは、もうちょっと次のページになるんですけれども、全て市長にお伺いしますっていうふうなお話を例えばしたとするんですけれども、実際は、担当部長さんがやはり、細かい部分については答えることになるかと思っただけなので、ちょっとこれは実は総務課と相談してきた中で、基本的には、市長、実務の部分については、市長のほうから担当部長に答弁させますと言って、担当部長から回答していただくような、市長にもし指名があったとしても、部長のほうから答えさせるっていうふうなことも出てきます、というようなお話でした。

そして、④と⑤の部分が、その指名をしたけれども、違う人を実は議場で指名してしまったといった場合、じゃどうしようかなといったところで④

の指名ありパターン、あの、誰部長、誰部長で指名している中で、質問をした場合で、その指名した部長さん以外に指定を、質問の中で指定してしまうといった場合には、基本はその指名した人しかやり取りをしないので、当然、指名した答弁者以外のために質問を修正してくださいとか、そういった発言を受けるようになるのかな。

どこかでの規制等が必要になるかな。

最後の⑤が、逆に今度は指名していないパターンなんだけれども、ある部長さんを指名してしまったといった場合には、基本的にはそれは指名をできない、最初から指名をしていないパターンですので、通告書において、答弁を指名をしていないので質問を修正してくださいといったような、あくまで指名をしないで質問をしていただくというふうな形に修正していただくという必要が出てくるかな。

といったちょっと論点のほう、提示をさせていただきます。

こういったところをどういうふうクリアしていくかっていう部分と、実際に本当に、これを導入していくかっていうところも、御意見をいただければなというふうに思います。

以上です。

○齊藤委員長 説明が終わりました。

ちょっと、か細くて聞こえづらかったかもしれない。

○長岡議事調査係長 すみません。

○齊藤委員長 書いてあるとおり、現状の県内の14市の取組はいいとして、指定についてのルールということで、この間ちょっと話し合ってたのは、指名ができる、できて質問ができる力量がある議員はそれを選ぶ。それが分からない人は今までどおり提出すると、こういう2パターンを用意しようっていうことにしました。そうすればカバーリ

ングできますので、その話でやっていくということで、じゃあ、指名をできる方はここで今やってくれたとおり、質問の内容の右側に答弁を求められるところがあるんですが、そこに全ての答弁者の名前を書くという形になります。そこに書いてもらったものには指名ができる。これ、再質問のときにもできるということですよ。そういう形でやっていくので、出す側はよく考えて、聞きたい人がいた場合には書かなきゃいけないということで、結構、諸刃の剣にはなります。ほっとけば答えてくれたのも聞けなくなる可能性もあるということで、そこは注意してください。

そのルールに沿って、決めたいと思うんですが、書き忘れちゃったんだからしゃあないからいいんじゃないのっていうルールは作らない方が多分いいと思うので、道路の建設部長の話を指定しないのに、子供の通学路の話して、答弁は求められない。本来、指名をしなければ立ってもらえないのに、書いてないから立たない。立ってしまったときには、議長が止めると、ちょっと、冷酷なんですけども、そのところは教育部長の答弁だけで終わらすとか、そういった形でいいですよ。自ら選んだ場合はねということで。

書いてない場合は、言っても、もうスルーということで、書いてないまま質問した人は、議長が止めちゃうと、答弁者の指名はされてないので、質問、質問変えてくださいっていうか、お聞きしますと言い直せばいいだけだと思うんですよ。その部分でやっていただくっていう対応でいいと思います。けど、大丈夫ですよ。それでね。その部分は。

じゃあ、先ほど言ってくれたとおり、1番、6番でいいんだよね、聞くところというのは。

○長岡議事調査係長 そうですね。6番。

○齊藤委員長 5番はいいよね。

○長岡議事調査係長 ところで、はい。

○齊藤委員長 あと、そう1個、気になったのはこのインターネットの中継の右テロップに、答弁者は市が決定するものであるため、質問の中で答弁を指定した人と答弁をする人が一致しない場合がありますって、これ書くの大変じゃない。これ要らないと思うんですけど、何で違うんだって言ったら、聞きにきてって、そのレベルでいいと思います。極端な話。

何々部長、何々、って全部、1個、だしますか、全部。もう直した。

○長岡議事調査係長 指定の人が変わる時には、その部長さんをもう1回指名していただいたほうがいいんじゃないかなとは思ってます。

○齊藤委員長 そこはちょっと技術的な話になるので、議長の進行のほうで、議長に頑張ってもらえないんですけど。

間違っちゃったら、どうしようもないので。

議長、大丈夫ですか。

○松田議長 いや、うん。

こんなに難しくする予定ではなかったんですけども。

いや、そもそもの一般質問で、何々部長って言っちゃうじゃないですか、話の中で。

○齊藤委員長 たまにね。

○松田議長 言っちゃう。それがいけないって、那須塩原議会言われてるから、それを取り払おうじゃないかっていう話をしてたんで、いちいち名前を変えて指名してどうのこうのっていう、そんな難しいことじゃなくて、部長って言っても構わないんじゃないのっていうところが、そもそもなんですよ。

指名して、指名して以外の者は意見を抽出できないっていうのも、いささかちょっと、議員の一般質問で、基本的に、最大限、議員がそこでしゃ

べれるのが大前提なので、ここまでしっかりつくっちゃうと、判断が難しいんじゃないかな。

こんなに、一生懸命つくってくれたんですけども、そもそも、話が一般質問の中でたまに部長って言っちゃうじゃないですか。

○鈴木委員 言ってるとおりで。俺、そう思っている。

○松田議長 その部長って言っちゃったやつは、うちはいけないって言われてんですけど、それってその言葉のやり取りの中で部長って言っちゃう時ってあるじゃないですか。

ある議員が、今、部長って、言われたな、言っちゃ駄目だぞって言われたんだけど、話の流れで部長って言っちゃうじゃない。

先ほどちょっと、すみません、何々部長の再質問の中でって言って、それをいいんじゃないの、それも駄目だっていうふうに言われてたんで、その辺をもうちょっと、柔らかくしてあげたほうがいいんじゃないか。

ここまで、指定して、その指定以外のことは言えないでってなっちゃくと、何か堅苦しくなっちゃって、あとは議長判断でって、それは、これつくればそうなっちゃうんだろうけど、もうちょっと柔らかいほうがいいような気がするんですよ。

一般質問の際のやりとりの中の部長って言っちゃいますよねっていう、それがいけないよっていうふうに今まで言われたんですけど、話の中でどうしてもこう、何々部長と、再質問してる中で、部長って言っちゃう時ってあるじゃないですか。それって話のスムーズさってあるじゃないですか。

真顔で、そこで再質問ですかって言って、もう分かてるんですよ。次の再質問、必ず建設部長の話するのはわかてるのに、その辺の、ここまでできっちり決めた方がいいのかなと思う。

そもそもその言葉のやりとりの中で部長と言っちゃうよね。それはいいんじゃないのとは思ったぐらいなので、指名してまで、きっちり指名してやるのやつは、できませんというのも、何か、何か。窮屈するんじゃないと思うんですよ。

○齊藤委員長 ありがとうございます。これをしないと多分相当迷惑になる質問をされてしまう可能性があるんで、ルールありでやっていきますかと、たまに口が滑って企画部長お願いしますという程度だったら、ああ、今言っちゃった程度でいいですけど、それが度を超してくると、じゃあちょっと待って企画も言ったけど、建設部どう思うのみたいな話になっていっちゃうんで、それを止めるってことで答弁の指名をしましょう。それを今までやらなければ、勝手に議長が答弁求めると言ったら、その人たちが気にして立ったわけですよ。なんですけど、そこでいくと、例えばこの問題は、産業観光部が担当していますので、私がお答えしますって言って、建設部の道路の話されちゃって、そうすると、こっちがやきもきしてて面白くねえから、今、建設部長がこう言ったけど、建設部の部長はどういうふうやってんですかって、聞いてもいいはずなんです。それが答弁を指名できるメリットなんですよね。

そうしないと、全然、産業観光部からじゃ、建設部の意見が聞けないんですよ。

だから、より深く質問をきれいにしていくための手法とってくれればいいんですけど、今言ったとおり、駄目だよっていうのを言っているよって言うんだったら、ここまで、ぼんとつくらなくてよかったんですけど、そこまでしてでもやる価値がある質問に、議員側のレベルを上げましょうっていうことなので。

○松田議長 2パターンあるからね。

○齊藤委員長 はい。

○松田議長 今までどおりのと、答弁者指名するのがあるから。

○齊藤委員長 片方にするんだったら、何か議長の言い方でいいんですけど、両パターンを残そうってということで、本当に、とにかく合体、分野横断的って執行部があれだけ言ってる中で、横断してんだから、両部局でしょっていう話の時に、片方だけ話すのはおかしいですよ。

なんで、それで緊張感はしっかりと上げていくってということと、コンセンサスが取れてるかどうかも議会側はチェックできるので、なんで、指名を使えば、諸刃だけど、より深掘りした質問ができると、同じ質問で2回聞けるわけですから、各部局の、なんでそのメリットを生かせればと思ったんです。

なんで、選ばなければ、普通に出せばいいだけの話です、と思ったんですけど。

○松田議長 よく分かりました。

○齊藤委員長 すみません。

なので、一応やる場合は、今、皆さん、大体うんうんと言ってくれてたので、まず、書いてない時には抜けちゃったから、抜けてても、元々、できる質問があって、深掘りができないだけなので、多分いけるとは思います。出すときに、ちゃんと何だ、事務局と話して、この質問の答弁者はどうですかって、事務局がちゃんと再度確認だけしてくれればいいっていう。その何々部がありますよっていうアドバイスは要らないから、本当に入れますかって、逆にこっちが聞いたときに、この話のときには、これ、子ども未来部も入ってんだけど、入れておいていいかなと言ったときには、やらない方がいいですっていうんじゃないかって、じゃあ、入れときましようかと言ってもらいたいですね。

不安になっちゃうんで、議員のほうも、結構、

選ぶのに当たって。何を聞くか、聞かないかで、もし聞かなかったときには、部長は緊張してたけど、それはごめんなさいというのは、実際、コロナのときに、僕も1回、やらかしたときがあって、すみません、部長、質問できなくて、すみませんというときがあったので、だから、そこはどうせ、基本的には部長、全員座ってますから、大丈夫じゃないかなと思っています。

6の1なんですけど、その答弁者の記載はどこまでするかということで、ここも、ちょっと、思ったんですけど、事務局というか、係長と僕が話し合ったんです。

例えば、財政の質問をした時に、総務部長が答えるべきなのか、財政課長がいる場合は財政課長を指名してもいいんじゃないのかって僕は思うんですけど、そのところをちょっと話したい。課長が座っているのはこの2つだけね、総務課長と財政課長、総務課長に聞くことっていうのは、あまりないのかなって思ってるんですけど、財政の課長に関しては、財政がたけている人が課長になっているので、全体的な漠然的な話であれば総務部長で、答弁でもいいんですけど、より深い話する時は、財政課長でもいいんじゃないのかって思ったんですけど、この辺はどう思われるかなんですけど。

局長、この辺どうですか。ちょっと行き過ぎています。

ほんとに財政課長だけなんです。僕が言ってるのは、総務課長に聞くことはあまりないんですけど。大丈夫ですか。これは。

局長。

○増田事務局長 たしか、私の記憶では、これって、地方自治法の121条に説明員の招集っていう、議長が招集できるような形になってたっていうふうに記憶しています。

ですので、当面、要は議場に参集する部課長、説明員で、議会によって違うんですよ。

当然、部長より課長のほうがどこの部署だって答弁できなければおかしいですよ。

そこら辺考えると、たまたま、今、総務課長と財政課長入ってますけども、部長級が多くなっちゃったんで、あと、私が記憶してんのは、上の気候変動ができた時に多くなったんで、山田部長が石塚事務局長のところに来て、悪いけど、事務局職員1人減らしてもらえないかって言われて、それはできないって言って、今の形になったっていうふうに聞いていますけどね。

そうすると、財政課長、たまたま入ってて、財政課長、受けたというと、じゃあうちもこっちの課長のほうが詳しいよ、なんていうことになってくると思うんです。

○齊藤委員長 そうなんですけど、座ってる人なんです、根本的に。議場に招集をさせるんじゃないんで、議場に座ってる人を指名できるっていう。だから、座り返しなさいってわけじゃないんですよ。

そのほかの詳しいことを聞くというよりは、そういう打合わせはできるんですけど。

係長。

○長岡議事調査係長 職員はその指名って、最初に、市長のほうから名簿は出されているんですよ。市長がこの人に答弁をさせると、その執行部の一覧みたいのを出して、そこに書いてある人たちが議場に、議長のほうもオッケーだよっていうのを受けて、議場にこう並ぶんですけども。

なので、先ほど、局長がおっしゃっていただいたように、その最初の指定をするのってあくまで執行部側なんですけれど、極端な話、例えば、財政課長とか総務課長とかが、本来その2人だけに置くのって、ちょっと、ほかにもいっぱいいるのに、おかしいよねっていう執行部の判断がされて

しまうと、もしかしたら、部長だけになっちゃう可能性っていうのは、将来的なちょっと話にはなりますけれども、可能性としては残っていて、基本的には、まず、最初に市長が自分の答弁をする人たちっていうのはこの人たちだ、この中に今は、たまたま、全課長は今まで入ってたけれども、今度人数が増えちゃって入らなくなっちゃったから、財政と総務課長だけはじゃあ取りあえず残っても、確認をするために残しとくというので、今、確か残してるのだと思うので、そこら辺の議場にいる人たちっていうのは、今の形がずっと続くかっていったら、それはちょっと分からない。執行部の判断も将来的にはちょっとあるのかなっていうふうに思います。

○齊藤委員長 それは分かるんだけど、要は最初の答弁だけじゃん、再質問の話で、なおかつ議場にいるんだったら、より細かいことが聞けるんじゃないかってだけなのね。

他の部課も隣に座ってればそれは指名してもいいんだけど、実際に来てないんだから、総務課長は、総務部長で同じ名前があるけど、財政課長っていうのは総務部なだけであって、実際細かいことが分かる部長さんが総務部長になられる時と、そうじゃない時があるので、コアな質問ができないってだけなんです。

○長岡議事調査係長 今の状態だと、そんな。

○齊藤委員長 ここは多分できない、多分。

みんな苦手だったと思います。

なんで、詳しいことを聞いた時にこっちで口づぐんじゃうんですよ、極端な話。

もうちょっと聞きたいなと思っててもいう話になっちゃうので、ここら辺が、ちょっとこれは、あれになっちゃうんで言えないけどっていうことなんで、いる人は指名してもいいんじゃないかって思っただけなんですけども。

○鈴木委員 事前の調整か。質問の項目をしっかりと聞きたいことを確認をしっかりとってもらえる確認ということ。

○小島委員 基本的には総務部長で、決まりなんですよ、本当は。

○鈴木委員 市長が答えるのも、総務部長としてだけなので、また、そこからしゃべるのかという話だよな。

○小島委員 そう。

たまたま、財政課長とか、総務課長が、補佐にいるわけなんだよ、あそこは。

だから。

○齊藤委員長 全然補佐する場所にいませんけど。

○小島委員 それは、また別の話。

だから、それは強要はしないほうが、もういいんじゃないかなと思う。

○齊藤委員長 何か、俺はここが許せないんですよ。

ここをやらないと、納得いかないんですよ。

議場に座っているわけですから、じゃあ、なぜ座っているのという話になっちゃうんですね。

じゃあ、出ていってもらって、同じく、時間止めてきちゃうわけですから。

○鈴木委員 今言ったように補佐するために座っている。

○齊藤委員長 だから、そのときだけ補佐するというのが、おかしいわけじゃないですか。総務課長と、財政課長は。

○小島委員 そういう役職の形になっているから、そこを、いるからって、質問していいとかっていう話ではないんだよ。

○齊藤委員長 だから、決めれば、質問飛ばしていいってことになるじゃないですか。

いるから、質問してきたことは、その理論じゃなくて、じゃあ、いるんだったら、聞けますよねという話。

○小島委員 そういうものじゃない。

○齊藤委員長 財政は聞きたいですね。

○鈴木委員 執行機関のほうで用意していただければありがたい。

。

○齊藤委員長 だから、何か隣の部屋で座っていただければいいですね、そしたらね。

○小島委員 様式のこと、1つ、いいですか、様式、様式のほうをちょっと見てもらって、私が思ったのは、最初に、答弁を求める者って、こう、一番最初だけつくるじゃないですか。

普通、どっちかっていうと、答弁を求めるときって、(1)とか、あそこで大体、人が変わるじゃないですか。

それなんで、ここには入れないほうがいい。

○齊藤委員長 違います。これのほうがいいんです。これで、線は気にしないでもらって、さっき言った、大項目1に、全て必要な答弁者を書くんです。(1)、(2)実は書かない。

だから、(1)の質問には、建設部長と書かれてあっても、出てこなくて、大項目の(2)のときには、建設部長出てくると思えばいいから、一緒に書いておいたほうがいいと思います。抜けないから、そののが。

○小島委員 これ、1、そしたら、2のときに、2のときに、今度、横に、1からこう書いてみるじゃないですか、普通に。

そしたら、2のページ、2ページと言えば、今度は。

○齊藤委員長 そう、2のところにもまた書く。大項目の話でしょう。

○小島委員 そうそうそうそう。

○齊藤委員長 そうそう。2のときに、線引いて書けばいいだけ。

○小島委員 何か、それなら、俺、(1)とか、(2)の後

ろに、入れたほうが。

○齊藤委員長 いや、それじゃ、4人ぐらいいたら、大変だよ書くの。

1人だったら、構わない、それで。

○小島委員 そこに、事前に用意すればいいだけの話で。

○齊藤委員長 絶対それだと、抜けが出ます。

○小島委員 抜けが出るというのは、その人のあれだから。

○齊藤委員長 絶対、自分で失敗しますよ。

○森本委員 大項目で書いておいたほうが、その下のやつが、全部。

○齊藤委員長 全部節なので。

○森本委員 聞けるということ。

○小島委員 (1)も(2)も(3)も(4)もその意見。

○齊藤委員長 大項目の次の小項目は全部1個、1番はこれだけの人を指名します。2番の全く違う話になったときには、また、それが全員聞けますというふうにつくったほうがいいという話です。

小っちゃい小項目ごとに、担当者を書かないほうがいいということです。大変になっちゃうんです、それ。指名するほうも大変です。

○小島委員 では、質問事項の下に、括弧入れたほうが、質問の内容が、すごく短くなって。

○

○齊藤委員長 これはごめんなさい、行が下にいくということ。

○森本委員 いったら、よかった、大項目の下に、議長、部長名をずっと書いたほうが、右側へ出ちゃうと、行が短くなるので、ページ数が増えちゃって書きにくいから、例えば、1、例えば、少子高齢化問題、保健福祉部長やったら、その下に、建設部長、教育部長。

○小島委員 そんなところまで。

○森本委員 子ども未来部長、福祉部長って、1項

目の下に書いたほうが右側に書くよりも、行を取らなくて済むということ。

そうすると、左側に書いてあれば、その1について、この部長たちを指名するということができるので、そうすると、今までと同じだけど、行の長さを使えるということ。

○齊藤委員長 だから、ちょっとだけ、こう書けばいいだけだから、右側のほうが多分いいと思いますよ。下だと、それ全部読まなきゃならないから。

○森本委員 今までとしては。

○齊藤委員長 その中にいっちゃったら読むね。

○長岡議事調査係長 御提案もいただいたところなんですけど、ちょっと、ちっちゃくて、あれなんですけど、一応、この地方議会運営辞典という中で、この一般質問と代表質問のフォーマットが一応掲載されてまして、その中では、一番右側に答弁を求める者という欄を設けるような。

○森本委員 ルールがあるんですね。

○長岡議事調査係長 そうなんです。

○齊藤委員長 さくら市議会とかが、全部右でやっているから。

までいたので。

○長岡議事調査係長 そうなんです。

一応標準的なものとして、一応、右側に。

○小島委員 そうなんだ。

○齊藤委員長 そうということなんだ。

ルールが、議会も、もう質問の詳細で、あんな、昭和何年から何とかて、歴史が書いてたことないんですよ、本当に、何々についてと言って、小項目を書いてあるだけだから、あんなにぐだぐだぐた書かないほうがいいんですけど。

長くて、どうしようもないから。

で、右側に、通りに 書いたほうがいだけなので、その行が足りないから、ページ使っちゃうというのは、また、違うかなとは思

うんですけど。

なんで、これ、もっと縮こめれば、一番長い、何みたいな感じで、気候変動、違うな、誰が一番長い、子ども未来か。

○長岡議事調査係長 1行で入らない。

○齊藤委員長 だって改行したっていいわけですよ、細いところを。子ども未来部長って、2行になったっていいからね。

見づらさは別に見ませんから、大丈夫。

○小島委員 つくらない人も特に。

○齊藤委員長 だから、どうしても、その自分がいっぱい書きたければ、答弁、指名しなければいいんですよ。

○小島委員 なしで。

○齊藤委員長 そう。なしで。

○小島委員 答弁を求める者を4。

○齊藤委員長 そこまでいっぱい書きたければ、もう、全然指名しなくていいので、大丈夫。

○小島委員 見づらいいだけだ。

縦に長いかな。

○齊藤委員長 どうしようもないです。

この線は消しますから。右側の線は消して。

空白にして。

○長岡議事調査係長 そうですね。その議論としては、一応、私の想定の中では、その指名ありとなしの場合、指名なかった場合も関係部長というふうな記載をしたらどうかとちょっと思ったんですけど、指名をしない方は、じゃあ、もう、右側の答弁を求める者という欄自体がないような。

○齊藤委員長 にしたほうが、俺いいと思う。

○長岡議事調査係長 いいですね。

○齊藤委員長 これは余計な気遣いになっちゃうか。

○長岡議事調査係長 分かりました。

○齊藤委員長 関係部長て書いてあるじゃんて言わ

れちゃうよ。

誰よりも指名やすくなっちゃうよ。

○長岡議事調査係長 それで、表向き、何ていうんですか、みんなで統一した形でやっているよという見え方がしたほうがいいのかと、ちょっと一方では思ったものですから、大丈夫です。

ただ。

指定、指名をしない方は。

○松田議長 大項目1番に、指名しないと、大項目の2番に指名するような場合。

○齊藤委員長 それはなしで。

○松田議長 そういう考え。

○齊藤委員長 もうするかしないかの2択しかないという。

○齊藤委員長 ここだけしたいというのは、やりたければ、1項目、やれば、誰か書いてくれと言わないと、そんな人いないと思うんですけど。

○松田議長 様式は。

○森本委員 このことは、関係部長に誰かに答えてもらったんだけど、このことに関しては、特定の部長に答えてもらいたいとあって、そういうことですよね。

○鈴木委員 様式はどうするのと。

○齊藤委員長 あまり、そこまでは考えてないです。

○長岡議事調査係長 取りあえず、欄は設けておいて、指名しない人はもう入れない、そこは全く入れない。

○大野委員 そこは決められるんだもんね。

○長岡議事調査係長 大項目のところには、例えば、第1項目では、誰も入れない、じゃあ、第2項目では答弁者を指名して、市長と、誰々部長と指名を第2項目はする。

○齊藤委員長 2パターンで嫌だ、そんなに。

空白で出していると、突っ込まれるよ。

だから、いいんだよ。しよせんみんなのレベル

に合わせるために、2パターン用意しているのに、フォーマットだけそろえようっておかしいと思うんだよね。

だったら、全員指名にしるよって、俺、言いたくなっちゃうんで、そこぐらいみんなで質問したいんだから、分かっているわけでしょうと言いたいわけね。

だけど、それが分からないとかへったくれってなって、事務局にも負担かかっちゃうので、指名選ばなくてもいいんじゃないですかと言っている話なので、そうしないと、みんなに、できない人に合わせているじゃ話にならないでしょう。

なので、その2択でいいんじゃないかと思ったんですけど、空白だと、何でこれ空白なのって、説明大変じゃない、これ。

関係部長って書いていたら、関係部長って、さつきみたく、へ理屈になっちゃう。

だから、何でこのフォーマット2種類あるかといったら、答弁できるようになりましたということでもいいんじゃないかなと思ったんだけど、指名ができるようになったんだって、できるようになって、書いていない人は指名しないのねって、何が違うのって言ったら、いや、質問したときに、回答をここで、選んだやつを勝手に来るんだけど、もう少し深堀りしたいときに、こっち、議員側から指名できるようにしたんだという話になるんじゃないかなと思ったんですけど。

どうですか、そろえたほうがいいですか、皆さん。

○森本委員 どっちでもいいけど。

○齊藤委員長 揃えた方がいいですか。

どっちでもいいけど、俺はただ、分けていたほうがいいんじゃないと思っただけで、ただ、どうでもいい質問の方と、一緒にされたら嫌でしょうという話。指名だけ書いてあっても、全然指名し

てくれないで、終わっちゃったりとか、言いたいこと言って終わっちゃっている質問とか、あるわけだから。

○長岡議事調査係長 事務局としては、別がいいかないという、指名しないんだったら、その欄がないほうが、分かりやすい。

○齊藤委員長 分かりやすい。  
それで勘違いしないほうがいいとは思いますが。

○小島委員 その方がいいかもしれない。

○齊藤委員長 一応、変化があるということと。

○小島委員 そのほうが分かりやすいね。

○齊藤委員長 ありがとうございます。  
じゃあ、いいですか。  
取りあえず、それでやってみましょう。  
また、やっぱり、これじゃ汚いよというんだしたら、試行的にはやりたいと思ってんです、どちらにしても。  
指名しなくても、今までどおり慣れているから、いいんじゃないと言ったら、また、戻せばいいんじゃないですかね、極端な話。絶対それで決まりじゃないので、1回やってみませんかという話で。  
うまく、それを使える人が何人かも分からないんで。  
果敢にチャレンジしてもらいたいと思うんですけど。

じゃあ、それで一応やっていきましょう。

○相馬議事課長 すみません。  
ちょっと確認的に、今度の質問から、ということになりますか。

12月の質問からということ。

○齊藤委員長 12月からやりたいですね。

○相馬議事課長 なるほど。

○齊藤委員長 じゃないと、もう当初で。

○相馬議事課長 確認的なところで、今、欄に、右側のところに、質問、答弁を希望する議員さんは、

そこに、市長なり、部長なりというふうに書いてもらおうと、指定を希望しない方は、書かないという感じですね。

希望する、市長なり、部長なり書くときに、例えば、(1)で答弁を引き出したい部長が保健福祉部長、(2)が子ども未来部長であれば、欄のところには、保健福祉部長、子ども未来部長というふうに列記していくということですか。

○齊藤委員長 そうです。

○相馬議事課長 そのこの答弁の仕方なんですけど、執行部のほうでは、第1回目の答弁があって、第2回、再質問といってもあるわけなんですけど、そこで、答弁を希望する方は、あくまでも、第1回の部分なんでしょうか。それとも、再質問の部分も想定してのところなんでしょうか。

○齊藤委員長 再質問もありですよ。

○相馬議事課長 再質問も。

○齊藤委員長 再質問もやります。そうじゃないと、再質問じゃないと意味がないんですよ、指名って。  
1回目、勝手にその向こうで決めた人に言われちゃうわけですから。

○相馬議事課長 そうすると、再質問の部分では、うちのほうと、議会とすると、もうその部長さんの答弁を確実に引き出したいということ。

○齊藤委員長 にしたいですよ、という話です。  
要は言い方が悪いんですけど、自分たちの部じゃないければ、いいやと思っちゃっているところも見抜かれているわけですよ、市民からすると。  
その部長の答弁じゃ分からないというのを、いっぱい議員は言われているわけです。

何で関わっている部長が答弁しないのという話にもなりかねないんで、絶対そういうふうにしていったほうがいいということですね。

だから、部長は多分、安心しちゃうんですよ。俺は今回関係ないって。じゃなくて、両方されて

いることによって、緊張感が増すんじゃないのかっていうことですよ。

なので、1番、(1)で最初に子ども未来部長が最初の答弁をしたとしても、(1)の中で、保健福祉部長に聞くことはありますよというふうになります、今後は。

もし、分野横断的な事業であれば。ただ、感想を聞くとなると、ちょっと失礼じゃないとは思いますが、だから、副市長なんかは、感想を聞かれる場面が増えるんじゃないかなとは思いますが。

副市長はどう思っているのって。なので、多少、何ていうのかな、多少打合わせ的なものは、ひょっとしたら、必要なかもしれませんが。

書いてある以上は、何かしらで聞いてくるんだろうというものにはなると思いますが。

市長は取りあえず、無条件で書いておけばいいよね。

○長岡議事調査係長 市長は、やはり、必要なと思います。

○齊藤委員長 市長は、一遍も、答弁しないで終わるやつもあるんで。

○長岡議事調査係長 そうですね。

○齊藤委員長 だから、どっかでは、市長がしゃべらなきゃいけないというところは出てくる可能性がある。(1)だけでも、答弁してくれというふうにしないと、市長が一遍も出ないやつの一般質問がたまにあるんですね。

なので、そこはちょっと変わるかもしれないです。

書いてあるのに、市長がしゃべらないで終わったという、もう大変なので。

何かしらしゃべってくれ。それから、ちょっと言ったら、すぐ部課に答弁させますと言えばいいだけなんで。

昔よく、寛さんはやっていたと思います。寛市

長のときはやっていた。

一言、本当は市長が言ってから、答弁すればいいんですけど、いきなり、手を挙げたんですよ、ほかの部長が。あれは市長が立って、答弁させますというのが、本当はやるべき行動だと思っているんですけど。

大丈夫でしょうか。

課長、大丈夫ですか、そんなニュアンスで。

○相馬議事課長 はい。

○齊藤委員長 よろしくをお願いします。

○長岡議事調査係長 ちょっとだけ確認で、すみません、この②のこの指名をした以外の部長さんが答えた場合、例えば、保健福祉部長を指名していたんですけども、実務担当は子ども未来部長がしていたから、じゃあ、私から答弁しますって答弁するケースも中にはあると思うんです。

そうした場合は、その答弁の指定を保健福祉部長しかしていないから、未来部長に再度質問するのはしないって、できないって考え方で大丈夫でしょうか。

○齊藤委員長 一番最初に指名をするということは、その質問の趣旨が自分の中には明確に分かってて、答弁者がずれるときには、多分、打合わせの、議会が始まる前に分かるんじゃないかと思うんです。

議案書が出るのが、開会日の前の日ですから、そこまで修正可能なんですよ。

だから、これをやっているのって、何々議員、子ども未来部じゃなくて、保健福祉部ですよっていうふうに、ならないかな。

であれば、そこまでいっちゃうと、それ、逆に、嫌がらせて執行部できちゃうじゃん。そんなことしたら。

保健福祉部長じゃなくて、子ども未来部にすれば、あいつに再質問させらんないみたくなっちゃうから、それはちょっとお互いさまでいけないの

かなって、もし、そういう事態になった場合には、質問変えてもらうしかないですね。議員が。

すごく、気に入らない議員はやりそうで怖いけど、駄目だよ、教えちゃ、執行部に。

違うから答えちゃえば、大丈夫ですね。

そんなことはないと思うんで、一応、その最終的な確認で、読めば分かると思うんで、再質問、ある程度は、どういうことを聞いていくか、ヒアリングはすると思うので、その中で、必要な部長は、議員各位が聞けばいいんじゃないですか。これ、ちゃんとやっている、ここの部でいいのっていうふうなことをして、やっていくべきだと思います。

○長岡議事調査係長 分かりました。

ありがとうございます。

最後、インターネットのテロップを書かなくてもいいんじゃないかといった御意見いただいたんですけど、例えば、お電話とかで市民の方から指名した人と違う人が答えてるけど何でなのってやっぱり言われるケースあるんじゃないかなっていうことからすると、通常、一般質問の時に、例えば4人、質問大項目を書いていたと思うんですけども、そのどっかで、一致しない場合がありますよっていうのを書いておけば市民の方から、何か一致しないんだけどって言った時に、いや、こういうふうな事情があつてっていうふうな、ここにも表記があるんですっていうようなお話ができるんじゃないかな、とっていて。記載を。

○齊藤委員長 ほしい、それ。

その電話の対応、大変、そんなに電話来ないと思うんだけど。

それを書くと、今度、ごみごみしちゃって邪魔だよねって。

○増田事務局長 せっかく、中継やっているんで、すっきりして見せたい部分もあると思うんですよ。

見るほうも。

○齊藤委員長 どこに書いておくの、それ。やっている最中の人の顔の横に出す。

○長岡議事調査係長 違うんです。インターネットの画面、ちょっと、見ると、左側に画像があつて、右側に、大項目が書いてあるんです。

○齊藤委員長 じゃあ、画面のほうね。

○長岡議事調査係長 画面のほうです。

○齊藤委員長 あのテレビの話で言っているから。

○長岡議事調査係長 議場のほうには、一切出てこないです。

○齊藤委員長 なら、じゃあ、そこはちょっと、説明必要ですね。

○長岡議事調査係長 すみません。そこにちょっと、載せさせて。

○齊藤委員長 全然、家で見ている分にはどうぞ。

○長岡議事調査係長 はい。

○齊藤委員長 テロップというと、うちら、あの白い文字だとおもっちゃうんです。

○長岡議事調査係長 そこにはちょっと。

○齊藤委員長 そこに入れたらもうね。

○長岡議事調査係長 見られない。

○齊藤委員長 枠になっちゃう。

○長岡議事調査係長 ありがとうございます。

○齊藤委員長 すみません、お願いします、それは、であれば。

あと、どこまでいった。③、③も終わった。

○長岡議事調査係長 そうですね。

③は執行部の対応だけなので、全く関係ないです。

○齊藤委員長 であれば、代表者質問、一般質問で指定した部長、部長以外を指名した場合は、議長から、答弁者のため、ということね。

これは、議長の力量で。

お願いしたいと思います。

じゃあ、あと、もう時間が大変なので、誰も財政課長のネタは持ってこなくて、とてもかわいそうなんですけど、指名してもいいんじゃないかとは思ったんですか、皆さんの意見がないということで、じゃあ、取りあえず、部長と、教育長と、副市長ということにします。残念ですけど。

あと、ないですか、何かありますか。

〔発言する人なし〕

○齊藤委員長 なければ、これで、試行的に12月に取り入れてみたいと思うんですけど、よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○齊藤委員長 黙ってますけど、大丈夫ですか。

取りあえず、試行的にやっていくということ。

○鈴木委員 自分の意見はこれ、こういうことやりたいという人がいるから、どうぞというだけで、もしかすると議長の気持ちはほとんど似ているなと思って聞いていたんですけど、そんなに細かくしなくてもいいんじゃないかなと。

○齊藤委員長

でも、さっき説明、僕、議長にさせてもらったので、はい。

○鈴木委員 強い言い方だなと思って。

○齊藤委員長 そうですね。

○鈴木委員 議長、やりにくいだろなと思って。

○齊藤委員長 いやいやいや。

議長が言ってくれた優しさではない趣旨があるんですけど、という話を言いたかっただけ。

○鈴木委員 そう、一生懸命質問するとそうなるかなと思ひながら、聞いていた。

○齊藤委員長 いやあ、みんな一生懸命質問していると思うんですけど。

じゃあ、よろしいですか。

じゃあ、取りあえずやってみようということで、お願いします。

また、フォーマットだけだから、できるよね。

○長岡議事調査係長 取りあえず。

○齊藤委員長 後で見ます。また。

じゃあ、すみません。

だんだんみんな電池が切れているみたいなので、これで、4番のほう、閉じたいと思いますけど、よろしいですか。

〔「はい」と言う人あり〕

○齊藤委員長 じゃあ、(5)その他です。

その他、何かお持ちの方、いらっしゃいますか。中里委員。

○中里委員 協議事項ではございませんが、えっと大きなその他がないので、ちょっとこちらのほうでお話をさせていただきます。

えっと、現在広聴広報委員会で、議会モニター制度というものを運用しております。

それで9月の定例会議の議会モニター会議についてなんですけども、11月4日金曜日午前10時からを予定しております。

で、議会運営委員会とともに、モニター会議を開催することになっておりますので、皆さんも予定のほうをしていただきますように、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○齊藤委員長 11月4日金曜日です。モニターということで、議運のメンバーの方参加ですから、よろしくお願ひいたします。

10時だそうです。

あと、今、中里委員が一般質問で、僕のほうであれしたいのが、最近、質問を分かりやすくするのに、何だ、作製、制作物の掲示があるんですけど、何か、せっかく持ってきているのに、カメラが映す前に、質問終わっちゃうんです、これ。

なんで、映す場所をこうするのと、ある程度大きいものじゃないときついとかって、本を紹介す

るなら、本を拡大コピーして表紙だけこうやるとかにしてもらったほうが多分いいと思うんですよ。なんか、こうやってたって、全然、ぎゅっと言っている間に、もう本人が画面見てっから全然こんなことしないでこうやって読んでるから、どこを映しているか分かんない人たちとかって、こう、なんか見づえが悪いので、ちょっと考えていけばなって思っています。

○鈴木委員 それでちょっといいですか。

せっかくのデジタル社会なんで、写真を撮って、最初から、これならこの写真撮って画面にばんと出すとか、ネットで見てる人がいればだけど、現場の話をした時に、こっち写真をその現場の道路の水たまりだったら、写真を撮ってきて、それを議長に、議会に提出しといて、その時の話をすると、画像がぱつとでたら、とかね、小さくなって出て、こっちでしゃべってみたいな、そんなことをたしか、町田市議会はそれに近いようなことを説明をしたことあるので。

そこもそういうことってできないかな。カメラで映すわけだと分かりづらいよね。

○齊藤委員長 技術的に難しいんですよ。ズームの配信だったらできるんですけど、まだネット中継わざわざあそこ入れて、画像だけ送ってるので、それができないんです。

○森本委員 その方がいいのはみんな分かっている。

○齊藤委員長 みんな分かっています。

なので、あとそれ以外には、ほら、巨大なスクリーンを置いて、パワーポイントで投射すればそれが見れるとか、そういう議会もあるんですよ。

なので。

○鈴木委員 そういうことを今後。

○齊藤委員長 せっかく用意したから、やってあげたいなって思ったんです。

何か、金子さんぐらいまで巨大化して、そのう

ち議場に入らないぐらいのものを作ってきたら、どうしたら。

○鈴木委員 結局読めないんだね。

○齊藤委員長 そうそうそう。

○鈴木委員 あの資料は分かりづらい。

○森本委員 金子さん、あれじゃ声も入らないし。

○齊藤委員長 もう何をしたいんだか、分かんなくワイドショー見てるみたくなってきちゃってね。

なんで、ちょっと画像のやり方、ちょっと研究していきたいと思うんで、また御意見いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○星副委員長 あともう一つ。

○齊藤委員長 副委員長。

○星副委員長 今、コロナもだんだん収まってきて、というのもあって、登壇者のところのこれ。

○齊藤委員長 もうアクリル板をなくすか。

○星副委員長 うん、いえ、あれがついてるんだしたらマスクをとって、発言してもいいんじゃないかなと思うんですけど、どうですか。

これは。

○森本委員 アクリル板あれば、これは要らない。

○星副委員長 そうそうそう、アクリル板があれば、マスクは要らない。

今は何かそういう議会も増えてきていると思うんです。

○齊藤委員長 掃除だけ大変なのね。

○星副委員長 掃除が大変。

○大野委員 もうちょっとこのままがいいと思うよ。もうちょっと。

○齊藤委員長 マスクは自由でいいですけど、アクリル板置いといて、ノーマスクは掃除が大変。

○長岡議事調査係長 あとあれですか、今日のように、ちょっと報告が重なるケースなんかだと、やっぱり、その空気が。

空気が充満しているという可能性は少しあるかもし

れないですが。

○齊藤委員長 アクリル板自体は、別に、マスクしているなら要らないような気がするけど。

だって、あそこに籠もるから。

○星副委員長 むしろ、アクリル板を外して、マスクして。

○森本委員 その方がいいかもしれないね。

マスクはしているけど、アクリル板は。

○齊藤委員長 アクリル板は要らないと。

○星副委員長 要らない。

○齊藤委員長 あってもなくて、別に何とも思っていないから、構わないけど。

○星副委員長 議長はアクリルがあると、聞こえづらいですかね。

○森本委員 マイクで流れているから。

○齊藤委員長 議長も何ともないと言っていたよ。

エアコンの吐き出し口だけ。聞こえづらいと言っていたよ。

○星副委員長 うん、聞こえづらい。

○齊藤委員長 取りあえず、まだ様子見るか。

○星副委員長 まだ、様子見て。

○齊藤委員長 みんな、そう言いたい人、言っている人、何人かいるんですけど、それは、今後の問題で。ということ。

ありがとうございます。

また次回。

取りあえず、5番のほう、なければ。

補佐、すみません。

○印南議事課長補佐兼庶務係長 事務局からなんですけれども、12月定例会内に議場コンサートの開催につきまして、御協力いただければと思うんですけれども、一応コンサートにつきましては、毎年6月と12月に実施をしているところです。コロナの関係で中止になったこともございましたが、直近では今年の6月に実施ができております。

12月のコンサートについて、実施の御案内いただいた場合には、出演者の選定とか交渉という作業に入っていきたいと思いますので、御協議のほうお願いいたします。

○森本委員 やっていいと思います。

○齊藤委員長 たまに委員会らしく、手を挙げて。森本委員。

○森本委員 やっていいと思います。

○齊藤委員長 コンサートって、必ず歌とかじゃなきゃ駄目なの。

ダンスとかしてる人でもいい。

コンサートってどういう意味ですか。

○森本委員 コンサートおん意味分からないですけど。

○齊藤委員長 英語しゃべれんのに。

なんかパフォーマーとかでもいいのかなと思いますって。

誰も知らないよ。知らないけど言ってみた。必ずしも、飛沫を出す人でなくてもいいんでしょう。

○印南議事課長補佐兼庶務係長 コンサートにつきましては、一応、要領的なものがございまして、目的のほう、傍聴者の呼び水ということ、であと、地元音楽家の育成という音楽家という文言がありますので。

○森本委員 地元音楽家の養成、育成も含まれているんですね。

○印南議事課長補佐兼庶務係長 地元で一応音楽関係ということで、これまでやってきた経緯があるかと思います。

○星副委員長 日舞は入らない。

○齊藤委員長 踊りって音楽に入らない。

○星副委員長 踊りはダンスになって。

○齊藤委員長 ちょっと、要項変えてもいいんじゃないの、それ。

どちらかという、育成は地元ってつけただけ

で、地元と呼ぶほうですよ、どっちかという、  
本当の趣旨の目標は。

議会に足を運んでもらう話なので、多分。

○印南議事課長補佐兼庶務係長 要項。

○森本委員 地元アーティストの育成とかにすると  
か。

○星副委員長 そうだね。

○齊藤委員長 ダンスは、アーティストなの。

○森本委員 ある程度幅広いんじゃないですか。

○齊藤委員長 そうなの、何で書いてあるのそれ。

○森本委員 前例集。

○鈴木委員 議運で変えられる。10月だから、別に  
自由で変えればいいんじゃない。やるかということ  
で、始める前の話だけ。

○齊藤委員長 音楽家だと、みんな、これ、心配す  
るかなと思ってたから。

鳴り物だって、言い出せばもう、いっぱい飛沫  
飛ぶしという話だし、じゃあ、多少、そういう、  
さっきの大道芸じゃないけど、そういうのもい  
いんじゃないということだけで。

○中里委員 こと、議場に人を呼ぶことが目的なの  
で、音楽とは書いてあるんですけど、もし可能で  
あれば、要項を変えたほうがいいのかというふう  
に思うんですよ。

○齊藤委員長 そうだよな。

○中里委員 というのも、やはり、そういった活動  
をしてらっしゃる方も数限られてるし、ネタも尽  
きてくるんです。

そうなってくると、やっぱり探す人も大変だっ  
ていう部分もありますし、ちょっと、議場に人を  
呼び込むって目的が達成されるためのもので  
あると別に、要項自体は、変えてもいいかなって。

○齊藤委員長 変えてね。

議運なんですかね、変えられるの。

全協の報告だけでいいのかな。

じゃあ、その辺議会までに変えます。

急いで変えたいと思います。

それなら、補佐も、能動的に呼べますもんね。

私、音楽のほうがよくやったのにと、そういう  
のは言わないと。

すみません。あと、それで、いいですよ。

次回なんですけど、係長なんの話したんだっけ、  
17だっけ。

○長岡議事調査係長 10月12日。

○齊藤委員長 12日ですね。

○長岡議事調査係長 午後2時半頃の  
予定です。

○齊藤委員長 正副委員長が。

○長岡議事調査係長 正副委員長会議、提言書の正  
副委員長会議が全体に入ってます、それが終わ  
り次第ということで、10月12日の午後2時半ぐら  
いかなと。

12日水曜日です。

○齊藤委員長 正副、だから、みんな来てんですよ、  
こっちの人たちは大体。

そうなんです。

○長岡議事調査係長 すみません。

○齊藤委員長 最初、17にすっかって言ったんです  
けど、次の日が全協の。

何かあったら直せないからって話して12日水曜  
日の2時半、頃なんで、2時頃、正副が早く終わ  
れば、2時からできるので、2時ぐらいい来てく  
れると助かる。ここでお茶飲んでいてください。

○森本委員 ちょっと遅れるかもですね。

○齊藤委員長

だから、12日にしたんですそれも入っていたん  
です。すみません。

お願いします。

ここまでに、さっきのポスターも含めてなんで  
すけど、なり手、のある程度、話も詰まると思う

ので、もう、あれなんで、皆さんに何やってもら  
うかだけ、ちょっと、詰めてと思います。

はい、では、長々と、ありがとうございました。



◎閉会の宣告

○齊藤委員長 以上で議会運営委員会、閉じたいと  
思います。

お疲れさまでした。

散会 午後 4時19分